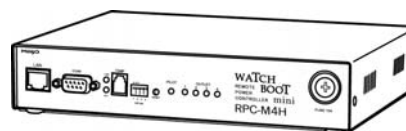


WATCH BOOT
mini
RPC-M4H

詳細版

■ 取扱説明書 ■

WATCH
REMOTE POWER
CONTROLLER mini
RPC-M4H



明京電機株式会社

ご購入ありがとうございます

WATCH BOOT mini RPC-M4H をご購入いただき誠にありがとうございます。

WATCH BOOT mini RPC-M4H はネットワーク経由でシステム機器の制御／管理をする自動電源制御装置です。4 個の 100VAC 電源を個別に遠隔制御／管理できます。また NTP サーバに接続することにより、週間スケジューラーとしてもご利用になります。

WATCH BOOT mini RPC-M4H が皆様の所有されるネットワークシステムにおいて、有効かつ有用なツールとして機能することを願っております。

最新情報を記載しておりますので購入後、以下のページを必ずご覧ください。

<http://www.meikyo.co.jp/support/index.htm>

この取扱説明書を必ずお読みください

本書はセットアップ手順と、操作、設置、安全の確保などのための手順が記載されています。

ご使用前に、必ず本書をお読みください。

付属品一覧

本製品には次の付属品が同梱されています。必ずご確認ください。

1. 取扱説明書（保証書）
2. CD-ROM
 - ・取扱説明書（詳細版） PDF ファイル（本書）
 - ・プライベート MIB ファイル
 - ・その他ユーティリティソフト



内容は CD-ROM 内の説明をお読みください。

3. RS232C（クロス）ケーブル
4. 2P/3P 変換プラグ

安全上のご注意



この取扱説明書での表示では、本装置を安全に正しくお使いいただくために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は以下のようになっています。本文をよくお読みいただき、内容をよくご理解の上、正しくご使用ください。

注意喚起シンボルとシグナル表示の例

 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、及び物的損害*の発生が想定される内容を示しています。

※物的損害とは家屋家財および家畜ペットにかかわる拡大損害を示します。

図記号の例

 分解・改造禁止	⊘は、禁止（してはいけないこと）を示します。 具体的な禁止内容は、⊘の中や近くに絵や文章で示します。 左図の場合は「分解・改造の禁止」を示します。
 電源プラグを抜く	●は、強制（必ずすること）を示します。 具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示します。 左図の場合は「差し込みプラグをコンセントから抜くこと」を示します。

警告

●万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く！

煙、変な音、においがするなど、異常状態のまま使用しないでください。火災や感電の原因となります。このようなときは、すぐに電源プラグを抜いてお買い上げの販売店や弊社にお問い合わせください。



電源プラグを抜く

●AC100V（50または60Hz）以外の電源電圧では使用しない

表示された電源電圧（交流100V）以外の電圧で使用しないでください。特に110Vを越える電圧では製品を破壊するおそれがあり、火災の原因となりますので、絶対に接続しないでください。



交流100V

●本装置の電源アースあるいはFG端子を接地する

本装置の電源プラグのアースあるいはFG端子を接地してください。感電や故障の原因となります。



アース接地

●本装置後面のACコンセントは15Aまで

本装置後面のACコンセントは、供給できる容量の合計は最大で15Aです。合計15Aを越えて使用しないでください。火災や故障の原因となります。



最大容量15Aまで

●たこ足配線をしない

本装置の電源は、家庭用電源コンセントから直接取ってください。本装置のACコンセントに、電源用テーブルタップなどを接続して使用しないでください。火災や故障の原因となります。



たこ足配線禁止

●電源コードを大切に

コードに重いものを載せたり、熱器具に近づけたりしないでください。コードが損傷し火災や感電、故障の原因となります。また、コードを加工したり無理に曲げたり引っ張ったりすることも、火災や感電の原因となるのでおやめください。コードが傷んだ場合はお買い上げの販売店、または弊社までご相談ください。



コードを乱暴に扱わない

●極めて高い信頼性や安全性が必要とされる機器に接続しない

本装置はパソコン及びパソコン周辺機器と接続する用途に設計されています。人命に直接関わる医療機器などの極めて高い信頼性または安全性が必要とされる機器には接続しないでください。



パソコン機器専用

警告

●ぬれた手で本装置や電源プラグにさわらない

ぬれた手で本装置の操作を行わないでください。ぬれた手で電源プラグを抜いたり、差し込んだりしないでください。感電の原因となることがあります。



ぬれた手でさわらない

●本装置の上や近くに水などの液体を置かない

本装置に水などの液体が入った場合、火災、感電、故障などの原因になります。



液体を近くに置かない

●異物を入れない

製品に、金属類や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。万一異物が入った場合はすぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店、または弊社までご相談ください。



内部に異物を入れない

●ヘアースプレーなどの可燃物を本装置の上や近くに置いたり、使用したりしない

スイッチの火花などで引火して火災の原因になることがあります。



可燃物禁止

●雷が鳴り出したら製品や電源プラグに触れない

感電の原因となります。本装置には、落雷用保護回路がありますが、FG端子を接地して、アースされた状態でないと十分な効果を発揮しませんのでご注意ください。



雷のときは、触れない

●分解したり改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、カバーをはずして内部の部品に触ったり、製品を改造したりしないでください。火災や感電、故障の原因となります。



分解・改造禁止

●製品を落したりして破損した場合は

そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、前面のコネクタをすべて抜いて、お買い上げの販売店、または弊社までお問い合わせください。



電源プラグを抜く

注意

●電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない

電源プラグを抜くときは必ずプラグを持って抜いてください。
コードを引っ張って抜くと傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。



コードを引っ張らない

●風通しの悪いところに置かない

製品を密閉された場所に置かないでください。熱がこもり、やけどや火災、故障の原因となることがあります。



風通しの悪い場所禁止

●温度が高くなるところに置かない

直射日光の当たるところや熱器具の近くなど、高温になるところに置かないでください。やけどや火災、故障の原因となることがあります。



温度が高い場所禁止

●お手入れのときは

本装置の本体が汚れた場合は、柔らかい布に水または中性洗剤を含ませ、よく絞ってから軽く拭いてください（絶対に、電源プラグやコネクタなどの接続部をこの方法で拭かないでください）。薬品類（ベンジン・シンナーなど）は使わないでください。変質・変色する場合があります。本体に接続されている電源プラグやコネクタなどの接続部のお手入れは、電源プラグやコネクタを抜いて、機器を傷つけないよう軽く乾拭きしてください。いずれの場合も、必ず本装置の電源プラグをコンセントから抜き、本装置に接続されている電源プラグやコネクタ類も全て抜いてから行ってください。感電や故障の原因となることがあります。



電源プラグ
を抜く

●湿気やほこりの多いところに置かない

湿気やほこりの多い場所や調理台、加湿器の近くなど、油煙や湯気があたるような場所に置かないでください。火災や感電の原因となることがあります。



湿気・ほこり禁止

●逆さまに設置しない

本装置を逆さまに設置しないでください。また、布等でくるんだ状態での使用もおやめください。特に、ビニールやゴム製品が接触している状態での使用はおやめください。火災や故障の原因となることがあります。



逆さま禁止

●電源プラグとコンセントの定期点検を

電源プラグとコンセントは長時間つないだまましていると、ほこりやちりがたまり、そのままの状態で使用を続けると、火災や感電の原因となることがあります。定期的な清掃をし、接触不良などを点検してください。



定期点検

●本装置は日本国内のみで使用

国外での使用は、電源電圧などの問題により、本装置が故障することがあります。



国内のみ使用

●不安定な場所やお子様の手の届く所には置かない

ぐらついた台や本装置より面積が小さいものの上や傾いた所、また衝撃や振動の加わる所など、不安定な場所やお子様の手の届く所に置かないでください。落ちたり倒れたりしてけがや故障の原因となります。



不安定な場所禁止

●ラジオやテレビなどのすぐ近くに置かない

ラジオやテレビなどのすぐ近くに置きますと受信障害を与えることがあります。



ラジオ、テレビの近く禁止

●データの保存について

データの通信を行なう際には、あらかじめデータのバックアップを取るなどの処置を行なってください。回線や本装置の障害によりデータを消失するおそれがあります。



バックアップ

●花びんやコップ、植木鉢、小さな金属物などを本装置の上に置かない

内部に水や異物が入ると、火災や感電の原因となります。万一、水などが内部に入ったときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。



上にものを置かない

●踏み台にしない

本装置の上に乗らないでください。倒れたりしてけがや故障の原因となることがあります。



踏み台禁止

目次

第 1 章	はじめに	11
	1 機能概要	
	2 接続可能な無停電電源装置 (UPS)	
	3 各部の名称と機能	
	4 DIPスイッチの設定	
	5 LED表示について	
第 2 章	設置・取り付け	16
	1 設置・取り付け	
	2 ラックへの取り付け	
	3 固定方法	
第 3 章	初期設定	18
	1 初期設定	
	RPCサーチソフトを利用する場合	
	IPアドレスを固定にして利用する場合	
	2 初期化の方法	
第 4 章	Webブラウザでの設定、制御	23
	1 ログイン	
	2 設定項目	
	基本設定	
	基本設定	
	時刻設定	
	機器設定	
	WakeOnLAN 設定	
	温度センサー設定	
	詳細設定	
	外部接続設定	
	仮想アウトレット設定	
	セキュリティ設定	
	ユーザーアカウント設定	
	セキュリティ詳細設定	
	通信設定	
	通信基本設定	
	通信詳細設定	
	メール設定	
	監視設定	

- P I N G 監視
- POPサーバ監視
- 温度監視
- スケジュール設定
- システム情報
- P I N G 送信
- 簡易説明

- 3 状態表示項目
 - 簡易情報表示
 - 監視状態表示
 - イベントログ表示
 - イベントログ
 - 温度センサーログ
- 4 電源制御
 - 電源制御
 - 仮想アウトレット制御
 - 一斉電源制御
- 5 CPUリセット

第 5 章	その他の設定	64
	1 TELNET 接続による設定		
	TELNET コマンドによる設定		
	2 ターミナルソフトによる設定		
第 6 章	その他の制御	69
	1 TELNET 接続による制御		
	TELNET 接続による制御		
	2 シリアルからの制御		
	3 モデムからの制御		
	4 メールからのコマンド		
	5 WEBコマンドからの制御		
第 7 章	ロギング機能	77
	1 ロギング機能の設定・表示		
	ログ制御変数のビット構成		
	ログ表示コマンド		
	ログの表示形式		
	記録ログ一覧表		
第 8 章	PPPoE の使用	81

	1 PPPoE について	
	2 設定について	
	3 制御について	
	4 動作について	
第 9 章	シャットダウン	86
	1 シャットダウンについて	
	2 パソコンの接続	
	3 パソコンの設定	
	4 スクリプト仕様について	
	スクリプトの基本動作	
	設定	
	ログ	
	エラー処理	
	テキスト仕様	
	PING 確認について	
第 10 章	無停電電源装置(UPS)との連携	94
	1 本機と無停電電源装置(UPS)の接続	
	2 機器設定	
第 11 章	SNMPの使用	97
	1 SNMP について	
	2 機器設定	
	3 MIB について	
第 12 章	ネットワーク稼動監視	101
	1 機器設定	
	2 RPC-EYE v 3 の利用	
第 13 章	仕様一覧	104
	変数一覧表	
	ログ変数一覧表	
	仕様一覧表	

問い合わせ先
 ご注意

第1章
はじめに

1. 機能概要

本装置には以下の機能があります。

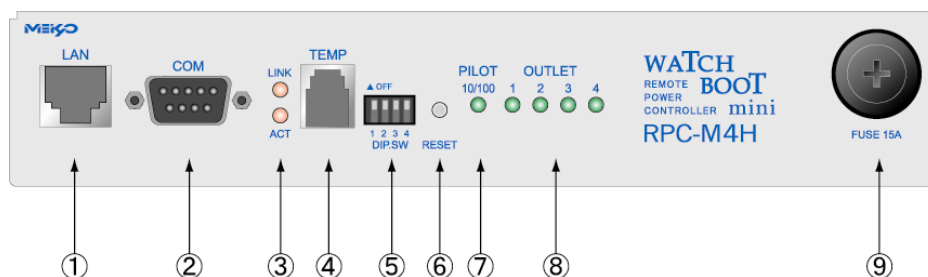
- 1) 4 個の 100V A C 電源を個別に制御/管理
- 2) 通信による電源制御
 - ・ WEB からの電源制御と設定
 - ・ TELNET からの電源制御と設定
 - ・ 専用ソフトからの電源制御と設定
 - ・ PPPoE クライアントとしての接続に対応
- 3) シリアルからの電源制御と設定
- 4) スケジュールによる制御
 - ・ 週間スケジュールによる電源制御
- 5) 監視機能
 - ・ 電源状態の監視
 - ・ ICMP による死活監視（PING 監視）
 - ・ 温度状態の監視（要オプション）
- 6) 各デバイスへの遅延電源投入
 - ・ 本体電源投入時に、指定した順番、タイミングによる各デバイスの起動
- 7) メールによる制御や通知
- 8) センター通知機能
 - ・ 電源状態と死活監視状態をセンターへ通知
 - ・ (MSRP) RPC -EYE v3対応
- 9) SNMP エージェント機能
- 10) 通信による遠隔バージョンアップ
- 11) 通信中継機能（制御ユーティリティ通信、TELNET 通信）
 - ・ TELNET クライアント、シリアルコンソールとして通信
- 12) MAGICPACKET による起動とスクリプトによるシャットダウン
- 13) スクリプト通信による OS のシャットダウン
- 14) 無停電電源装置（UPS）との連携によるシャットダウン処理

2. 接続可能な無停電電源装置 (UPS)

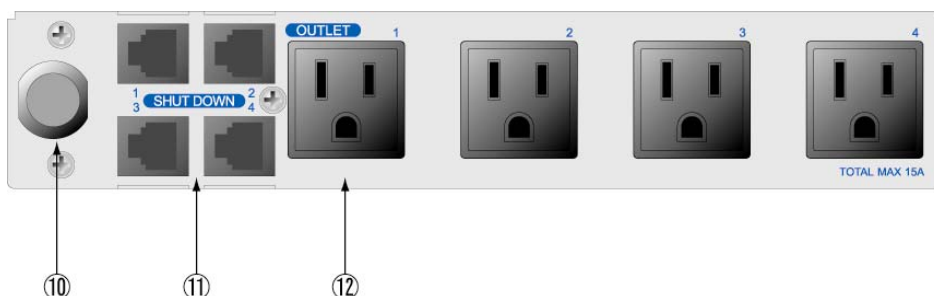
接点通信式無停電電源装置 (UPS) が接続できます。本装置に対して、Windows の標準UPSサービスが動作しているパソコンに対するように動作する必要があります。

3. 各部の名称と機能

フロントパネル



リヤパネル



① LAN	LAN ケーブル (8 ピン RJ45) を接続します。
② COM	初期設定用及び UPS 及びモデム・シリアル接続用通信ポートとして使用します。
③ LED (LINK、ACT)	CPU の通信状態を表示します。
④ TEMP	温度センサーを接続します。
⑤ DIP スイッチ	初期設定、本体設定に使用します。
⑥ RESET スイッチ	出力電源に影響を与えずに CPU を初期化します。
⑦ PILOT LED	本体に電源が投入されている場合に点灯します。
⑧ OUTLET LED	AC アウトレットの電源出力状態を表示します。
⑨ FUSE	ガラス管ヒューズ 15A を使用します。
⑩ 電源コード	商用電源、UPS などに接続します。
⑪ シャットダウン I/F	シャットダウンケーブル (別売) を接続します。
⑫ AC アウトレット	デバイスの電源コードを接続します。

4. DIPスイッチの設定

DIPスイッチの機能 (OFFは「上」、ONは「下」を意味します。)

NO.	状態	モード
1	OFF	運転モード
	ON	UPS (接点信号式) 連携運転モード、中継機能専用モード、初期化
2	OFF	OFFに固定
	ON	中継機能専用モード
3	OFF	運転モード
	ON	メンテナンスモード、初期化
4	OFF	OFFに固定
	ON	未使用

DIPスイッチの設定

DIPスイッチNO.		1	2	3	4
通常運転時	OFF	■	■	■	■
	ON				
UPS 連携運転時	OFF		■	■	■
	ON	■			
初期設定時	OFF	■	■		■
	ON			■	
初期化時	OFF		■		■
	ON	■		■	
中継機能専用モード	OFF			■	■
	ON	■	■		

* 中継機能専用モードでは、シリアルからのコマンドを受け付けなくなります。

注意

DIPスイッチを操作するときは、本体のACアウトレットから全デバイスを取り外してください。

DIPスイッチ操作また設定終了後は、必ず、本体前面のRESETスイッチを押してください。誤動作する恐れがあります。

初期設定は、第3章「初期設定」、「初期化の方法」を参照にして設定してください。

5. LED 表示について

本体には3種類のLEDが装備されています。

1) LINK、ACT LED

CPUの通信状態を表示します。

LED	用途	状態	表示
LINK	CPU 状態	ケーブル抜け PPPoE 接続、通常状態 PPPoE 接続、障害または復旧中 LAN 正常リンク	0.25 秒点灯、0.25 秒消灯 2 秒点灯、0.5 秒消灯 0.5 秒点灯、0.5 秒消灯 1 秒点灯、1 秒消灯
ACT	通信状態	パケット受信時 パケット未受信時	点灯 消灯

2) PILOT LED

本体に電源投入されている場合、オレンジが点灯します。

本体に電源投入され、100BASE-TX リンク時にはグリーンが点灯します。

全アウトレットの死活監視リポート回数の合計が設定値を越えたら赤が点灯にします。

(初期値は 12 回)

POP サーバへのアクセスエラー時は、2 秒点灯→0.25 秒消灯→2 秒点灯します。

3) OUTLET LED

① ACアウトレットの電源出力状態を表示します。

ONの場合 : 点灯

OFFの場合 : 消灯

② OFF 遅延中、1 秒点滅

③ 死活監視

1. 死活監視の動作が「リポート」または「ログのみ」の場合

(ア) 死活監視異常中 (出力 ON) は、2 秒点灯→0.25 秒消灯→2 秒点灯

(イ) 死活監視スタート後、全てのPING 監視対象から応答を確認するまでの間、1 秒点灯→0.25 秒消灯を繰り返し、その後点灯します。(出力は ON)

2. 死活監視の動作が「ON」の場合

(ア) 死活監視異常中 (出力 ON) は、2 秒点灯→0.25 秒消灯→2 秒点灯

(イ) 死活監視スタート後、全てのPING 監視対象から応答を確認するまでの間、1 秒消灯→0.25 秒点灯を繰り返し、その後消灯します。(出力は OFF)

3. 死活監視の動作が「OFF」の場合

(ア) 死活監視スタート後、全てのPING 監視対象から応答を確認するまでの間、1 秒点灯→0.25 秒消灯を繰り返し、その後点灯します。(出力は ON)

「ON」「OFF」の設定はブラウザや制御UTYからは行えません。変数 [debOWdogAction] を直接変更する必要があります。

第2章 設置・取り付け

1. 設置・取り付け

以下の手順で設置します。

- 1) 本体を設置場所に置きます。設置場所は、単相 100V A C / 15A 以上のコンセントに直接差し込める場所で本体背面に電源プラグが、差し込める位置であることを確認します。
- 2) 本体前面のLAN用コネクタにLANケーブルを接続します。
- 3) 本体の電源コードをコンセントに接続します。

注意 本装置を逆さまに設置しないでください。火災や故障の原因となることがあります。

2. ラックへの取り付け

以下の手順でラックに取り付けます。

- 1) ラック・キャビネットにプレートを取り付けます。
プレートはラックサイズに合った一般市販品をご用意ください。
- 2) ラック・キャビネットに本装置を設置します。
- 3) 本体前面LAN用コネクタにLANケーブルを接続します。
- 4) 電源コードをコンセントに接続します。

3. 固定方法

本装置固定のため設置用の穴があります。

底面についている設置用の穴（4箇所）を利用して機器を固定します。
取り付け用のねじは、M 3×8 L (MAX) をご利用ください。

注意 壁面に取り付ける場合は、オプションの取付金具 ATTO2 が便利です。
オプション：取付金具 (ATTO2) 標準価格 3,150 円 (税込)

第3章 初期設定

1. 初期設定

1-1 RPCサーチソフトを利用する場合

RPCサーチソフトを利用して頂ければ、同一セグメント上の本装置を検索し接続することができます。DHCP 機能を利用した場合のように IP アドレスが分からない場合でも、本装置を検索し接続することができます。RPCサーチソフトのインストール手順は添付 CD-ROM の README.txt を参照してください。

設定用 PC と本装置とは、DHCP サーバの存在する LAN に接続します。

- 1) RPCサーチソフトを起動し、「検索」ボタンをクリックします。

RPCサーチソフト起動画面



- 2) 検索した機器を選択し、「HTML 接続」ボタンをクリックすると Web ブラウザが起動しログイン画面が表示されます。

RPCサーチソフト機器検索画面



注意 LINK, ACT LED がいつまでも、交互に点滅している時は、DHCP によるアドレス取得ができない状態です。DHCP サーバを確認するか、IPアドレスを固定にしてご利用ください。

1-2 IPアドレスを固定にして利用する場合

DHCP 機能を無効にすると固定の IP アドレスを設定できます。外部のネットワークから接続するために固定の IP アドレスを必要する場合などは、DHCP 機能を無効にして「IPアドレス」を設定します。

設定用 PC と本装置とは、LAN 用コネクタに LAN ケーブルで接続します。
(PC と直接接続する場合は、クロス LAN ケーブルになります)

- 1) LAN や VPN 上に 192.168.10.1 および 2 の IP アドレスを持つホストがないことを確認します。
- 2) 設定用 PC の IP アドレスとネットマスクを以下の通り設定します。Win9x の場合は設定変更後、再起動が必要です。
IP アドレス : 192.168.10.2
ネットマスク : 255.255.255.0
- 3) 本体前面の DIP スイッチ 3 を ON にします。
(メンテナンスモードになり、IP アドレスが 192.168.10.1 となります。)
- 4) 本体前面の RESET スイッチを押します。
- 5) 設定用 PC の Web ブラウザを起動します。
http://192.168.10.1 を指定し、本装置にアクセスします。

注意 ブラウザは JavaScript とフレームに対応している必要があります。

- 6) Management menu 画面が表示されます。

Management menu	
MACアドレス	00:09:EE:00:01:28
IPアドレス	192.168.1.65
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	
DNSサーバーアドレス	
DHCP機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
HTTP機能	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
HTTPポート	80
TELNET機能	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
TELNETポート	23

適用 リセット

- 7) 「DHCP 機能」を無効にチェックし「適用」をクリックします。その後、IP アドレス欄にご利用になる LAN に適切な IP アドレスを入力します。
- 8) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

- 9) 本体前面の DIP スイッチ 3 を OFF にします。(運用モードにします。)
- 10) 本体前面の RESET スイッチを押します。
- 11) Web ブラウザを閉じます。
- 12) 設定用 PC の IP アドレスを元に戻します。
Win9x の場合は設定変更後、再起動が必要です。

<p>注意 設定後は、必ず「適用」をクリックし、「RESET スイッチ」を押してください。「RESET スイッチ」を押さないと設定が反映されません。</p>
--

2. 初期化の方法

本装置を初期化して出荷状態に設定します。

(まだ電源コードをコンセントに接続しないでください。)

- 1) 本体前面のDIPスイッチ1と3をONにします。
- 2) 電源コードをコンセントに接続し、電源を供給します。
- 3) 本体前面のLED(LINK)が5秒間点灯します。点灯中に本体前面のRESETスイッチを押します。
- 4) 初期化が成功するとLED(LINK)とLED(ACK)が同時点灯します。
- 5) LED(LINK)が消灯した場合は一旦電源コードを抜き、電源を供給からやり直してください。
- 6) 初期化後は、DIPスイッチを全てOFFにし、再度電源を供給してからご使用ください。
- 7) 以上で初期化が終わりましたので、前項目の「初期設定」から実行してください。

注意 初期化中には本体の電源を切らないで下さい。

第4章

Webブラウザ での設定、制御

1. ログイン

インターネットでアクセスする場合は、通信機器の設定が必要です。通信機器の設定などは通信機器のマニュアルに従ってください。(PROXY 経由ではご利用になりません)

注意 ブラウザは JavaScript とフレームに対応している必要があります。半角記号”?”,”=”,”%”,”&”,”,(カンマ)”,”(ダブルクォーテーション)は入力しないで下さい。

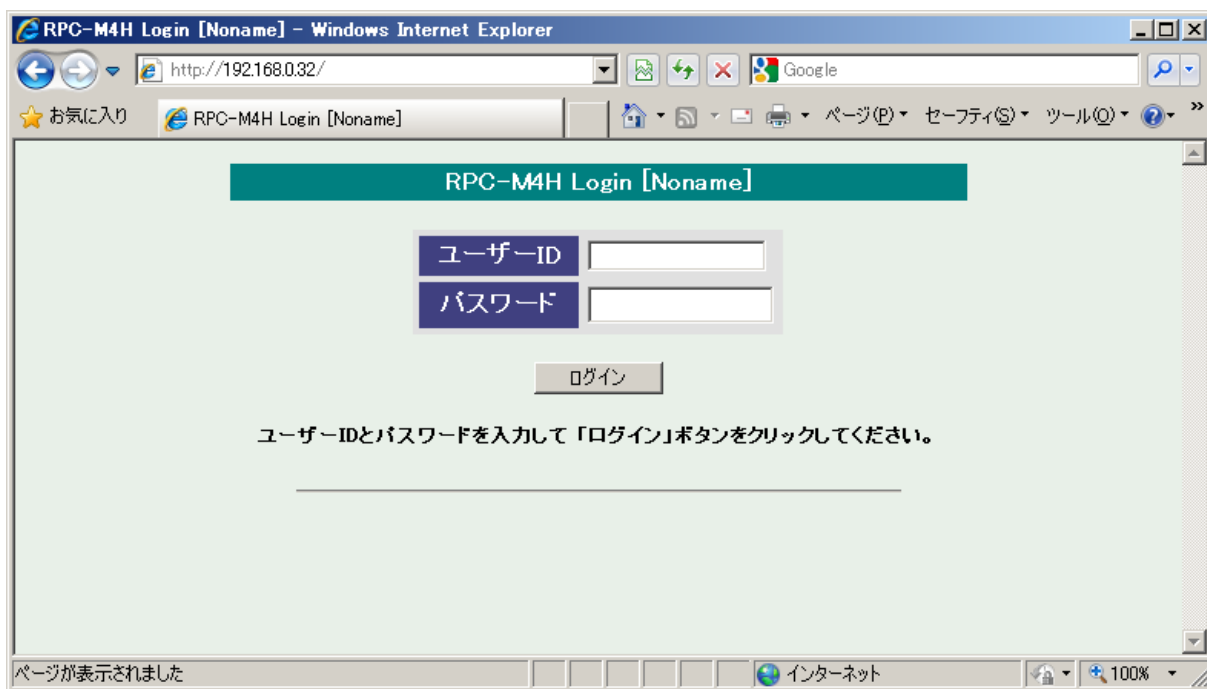
- 1) RPCサーチソフトを起動し、「検索」ボタンをクリック検索した機器を選択し、「HTML 接続」ボタンをクリックする。またはWebブラウザを起動し、本装置に設定されたIPアドレスを指定してアクセスします。

(例 IPアドレス : 192.168.10.1)

HTTPポート番号「80」デフォルトの場合
http://192.168.10.1

HTTPポート番号「500」に設定した場合
http://192.168.10.1:500

ログイン画面



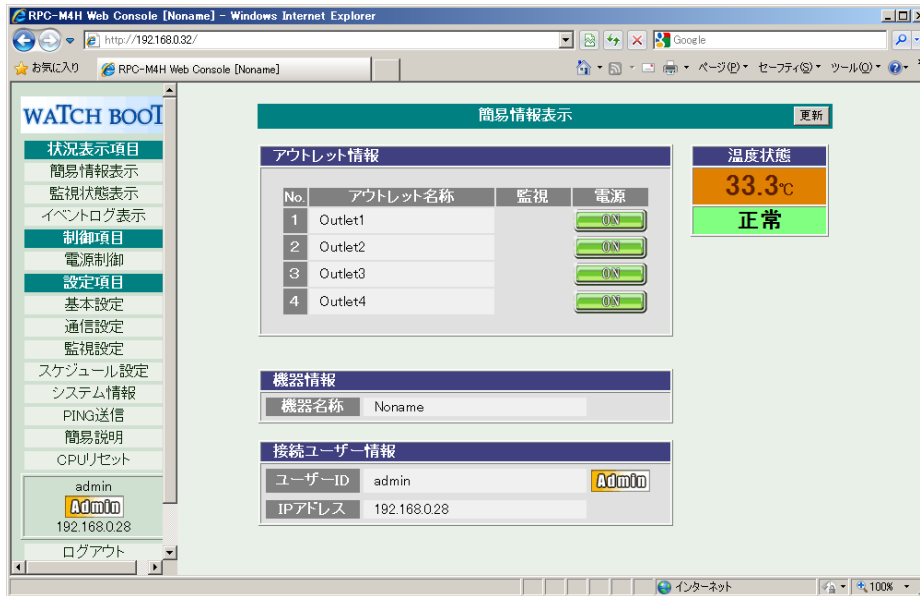
2) ユーザー名とパスワードを入力し、「ログイン」ボタンをクリックします。

ユーザー名 : admin (デフォルト)

パスワード : magic (デフォルト)

3) 簡易情報表示画面が表示されます。

簡易情報表示画面



注意 簡易情報表示は現在の本装置の状態を表示する画面で実際に制御することは出来ません。

2. 設定項目

2-1 基本設定

2-1-1 基本設定

- 1) 画面左側設定項目の「基本設定」をクリックします。基本設定画面が表示されます。

基本設定画面

基本設定

基本設定 詳細設定 セキュリティ設定

時間設定

PCによる時刻設定 時刻設定

機器設定

機器名称: Noname
設置場所: Nowhere

No.	アウトレット名称	OFF遅延	再投入	ON遅延
1	Outlet1	0 秒	10 秒	1 秒
2	Outlet2	0 秒	10 秒	2 秒
3	Outlet3	0 秒	10 秒	3 秒
4	Outlet4	0 秒	10 秒	4 秒

全アウトレット再投入: 10 秒

※OFF遅延を「-1」にするとOFF操作を使用不可にします。
※ON遅延を「-1」にすると自動で電源出力を開始しません。

LEDによる状態表示機能 無効 有効

Wake On LAN設定

	MACアドレス
アウトレット1	
アウトレット2	
アウトレット3	
アウトレット4	
パケット送信回数	2
パケット送信間隔(秒)	15

[送信テスト画面へ](#)

※対象アウトレットがOFFからON動作時に送信されます。

温度センサー設定

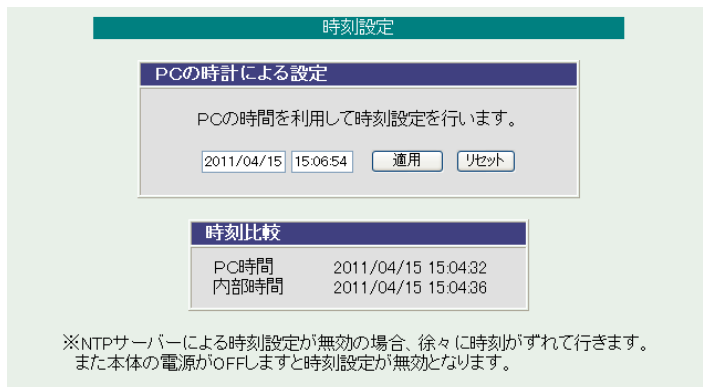
温度センサー 無効 有効

適用 リセット

2-1-1-1 時刻設定

1) 時間設定の「時刻設定」をクリックします。時刻設定画面が表示されます。

時刻設定画面



時刻設定

PCの時計による設定

PCの時間を利用して時刻設定を行います。

2011/04/15 15:06:54

時刻比較

PC時間	2011/04/15 15:04:32
内部時間	2011/04/15 15:04:36

※NTPサーバーによる時刻設定が無効の場合、徐々に時刻がずれて行きます。
また本体の電源がOFFしますと時刻設定が無効となります。

PCの時刻による設定

「適用」をクリックすると接続されたPCの時刻に設定されます。

2-1-1-2 機器設定

機器に関する設定をします。

機器名称： 機器名称を設定します。

設置場所： 設置場所を設定します。

全角 9 文字、半角英数字 19 文字以内

① アウトレット名称： 個別アウトレットの名称を設定します。

全角 10 文字、半角英数字 20 文字以内

② OFF 遅延

個別アウトレットの電源出力を停止する際の OFF 遅延時間を設定します。シャットダウンを利用する場合は、スクリプトあるいはシャットダウン信号が動作してシャットダウンが終了するまでに必要とされる十分な時間を設定してください。「-1」設定は、電源 OFF 操作を禁止にし、リブート操作のみ有効とします。ルーターやハブなど誤操作による電源 OFF を避けたい場合に便利です。(電源切断により、ネットワークへアクセスできなくなるケースを回避します。) この時間は以下の操作を行う際に適用されます。

・個別アウトレット制御の OFF 操作

・全アウトレット制御の OFF 操作

デフォルト : 0

設定可能値 : -1 ~ 3600 (秒)

「-1」 : アウトレット制御の OFF 操作を使用不可にします。リブート操作のみ可能です。

「0」 : 即座に電源出力を停止します。

「1~3600」 : 指定した時間遅延させた後、電源出力を停止します。

③ 再投入

個別アウトレットの電源出力を停止してから開始するまでの時間を設定します。この設定により、接続された任意のデバイスに最適なリブート時間を確保できます。この時間は以下の操作を行う際に適用されます。

・個別アウトレット制御のリブート操作

デフォルト : 10

設定可能値 : 8 ~ 3600 (秒)

④ ON 遅延

個別アウトレットの電源出力を開始するまでの時間を設定します。この設定により、指定した順番に、指定したタイミングで個別アウトレットの電源出力を開始させることができます。この時間は以下の操作を行う際に適用されます。

- ・本体電源投入時
- ・全アウトレット制御のON操作
- ・全アウトレット制御のリブート操作

デフォルト : No.1-1 No.2-2 No.3-3 No.4-4

設定可能値 : -1 ~ 3600 (秒)

「 -1 」 : 自動で電源出力を開始しません。

「 0 」 : 即座に電源出力を開始します。

「 1~3600 」 : 指定した時間遅延させた後、電源出力を開始します。

⑤ 全アウトレット再投入時間

全アウトレットの電源出力を停止してから電源出力を開始するまでの時間を設定します。この時間は以下の操作を行う際に適用されます。

注) 個別アウトレットの再投入時間は反映されません。

- ・全アウトレット制御のリブート操作

デフォルト : 10

設定可能値 : 8~3600 (秒)

⑥ LEDによる状態表示機能

有効: 「簡易説明」の内容通りに、各LEDの状態表示が動作します。

無効: P I L O T, O U T O L E T LEDの点滅動作はなくなり、点灯または消灯となります。

デフォルト : 有効

2-1-1-3 WakeOnLAN 設定

WakeOnLAN に関する設定をします。

アウトレット 1~4 デフォルト : 00:00:00:00:00:00
MAC アドレス

パケット送信回数 デフォルト : 2 (回)

パケット送信間隔 (秒) デフォルト : 15

- * パケット送信回数は仮想アウトレットと共用です。
- * パケット送信間隔は仮想アウトレットと共用です。
- * アウトレットが ON した時、マジックパケットを送出します。

WakeOnLAN 機能について

WakeOnLAN 対応の機器を電源出力開始と同時に MAGIC PACKET を送信し、ブートアップさせることができます。

2-1-1-4 温度センサー設定

温度センサーに関する設定をします。

温度センサー : 有効 無効

- 1) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。
- 2) 「送信テスト画面へ」をクリックし、送信テスト画面を表示させ WakeOnLAN 送信テストの各アウトレットの「送信」をクリックすると設定されている「MAC アドレス」に MAGIC PACKET を送信します。

送信テスト画面



注意 「適用」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。設定によっては、「CPU リセット」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。

2-1-2 詳細設定

本装置シャットダウンスクリプト、仮想アウトレット及びUPS連動に関する設定をします。

基本設定項目の「詳細設定」をクリックします。詳細設定画面が表示されます。

詳細設定画面

詳細設定

基本設定 詳細設定 セキュリティ設定

シャットダウンスクリプト設定

シャットダウン スクリプト設定

UPS連動 UPS連動設定

※特殊記号は利用できません。

仮想アウトレット設定 [Wake On LAN]

No.	仮想アウトレット名称	MACアドレス	ON遅延
1	<input type="text"/>	<input type="text"/>	0 秒
2	<input type="text"/>	<input type="text"/>	0 秒
3	<input type="text"/>	<input type="text"/>	0 秒
4	<input type="text"/>	<input type="text"/>	0 秒
5	<input type="text"/>	<input type="text"/>	0 秒
6	<input type="text"/>	<input type="text"/>	0 秒
7	<input type="text"/>	<input type="text"/>	0 秒
8	<input type="text"/>	<input type="text"/>	0 秒

バケット送信回数 2 回

バケット送信間隔 15 秒

COMポート設定

COM1 通信速度 38400bps

COM1 キャラクター長 8 bits

COM1 ストップビット 1 bit

COM1 パリティ none

通用 リセット

2-1-2-1 シャットダウンスクリプト設定

本装置にシャットダウンスクリプトに関する設定をします。

- 1) 「スクリプト設定」をクリックします。スクリプト設定画面が表示されます。

スクリプト設定画面

① スクリプト設定（アウトレット*）

- | | |
|---------|---------------------------------|
| スクリプト実行 | : 無効、有効 |
| スクリプト番号 | : 0（デフォルト）
1（Windows用設定が登録済） |
| IPアドレス | : IPアドレスを設定します。 |
| Port番号 | : 0（デフォルト） |
| ログインID | : 最大半角8文字。 |
| パスワード | : 最大半角16文字 |
| PING実行先 | : |
| PING間隔 | : 0（デフォルト） |
| PING回数 | : 0（デフォルト） |
| PING限度 | : 0（デフォルト） |
| メッセージ | : |

- 2) シャットダウンスクリプトを設定するアウトレット No をクリックし、選択します。「スクリプト登録」をクリックします。スクリプト設定画面が表示されます。

スクリプト設定画面

スクリプトファイル指定項目に、スクリプトファイルを選択します。

スクリプトエラー時の終了コードによる電源OFF

終了コードがこの値を超えていたら、電源をOFF しません。

「0」なら、終了コードが0 のときだけオフにします。

「255」なら、どんなときにもオフにします。

詳細は「第9章 シャットダウン」をご参照ください。

2-1-2-2 UPS 連動設定

UPS 名称	:	UPS 名称を設定します。 全角 10 文字、半角英数字 20 文字以内
UPS モニタ時間間隔	デフォルト	: 10 秒
UPS シャットダウン開始時間	デフォルト	: 120 秒
停電検地レベル	:	負 正
ローバッテリー検出レベル	:	負 正
UPS シャットダウン信号レベル	:	負 正
UPS シャットダウン有効化	:	無効 有効

2-1-2-3 仮想アウトレット設定

仮想アウトレットに関する設定をします。

仮想アウトレット名称	:	仮想アウトレット名称を設定します。 全角 10 文字、半角英数字 20 文字以内
MAC アドレス	デフォルト	: 00:00:00:00:00:00
ON 遅延 (秒)	デフォルト	: 0
パケット送信回数 (回)	デフォルト	: 2
パケット送信間隔 (秒)	デフォルト	: 15

仮想アウトレット

仮想アウトレットとは、実際には存在しないアウトレットであり、関連付けされた MAC アドレスのマジックパケットを送出して、WakeOnLAN 機能を実現させるためのものです。

2-1-2-4 COM ポート設定

COM ポートに関する設定をします。

COM1 通信速度	デフォルト	: 38400bps
COM1 キャラクター長	デフォルト	: 8bits
COM1 ストップビット	デフォルト	: 1bit
COM1 パリティ	デフォルト	: none

設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意 「適用」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。

2-1-3 セキュリティ設定

本装置にセキュリティに関する設定をします。

2-1-3-1 ユーザーアカウント設定

(WEB および制御ユーティリティからのログイン時に有効)

- 1) 「ユーザーアカウント設定」をクリックします。ユーザーアカウント設定画面が表示されます。

ユーザーアカウント設定画面

セキュリティ設定

ユーザーアカウント設定 セキュリティ詳細設定 基本設定に戻る

※ 入力項目は半角英数のみ有効

Ident (システム情報の参照のみ)

No.	ユーザーID	パスワード	No.	ユーザーID	パスワード
1			6		
2			7		
3			8		
4			9		
5			10		

Control (システム情報参照と電源の制御のみ)

No.	ユーザーID	パスワード	No.	ユーザーID	パスワード
1			6		
2			7		
3			8		
4			9		
5			10		

Admin

No.	ユーザーID	パスワード	No.	ユーザーID	パスワード
1	admin	●●●●	4		
2			5		
3					

適用 リセット

Ident : 簡易情報表示と監視状態表示のみ (※ 最大 10 件登録)

Control : 簡易情報表示と監視状態表示及び電源の制御のみ (※ 最大 10 件登録)

Admin : 全ての権限 (※ 最大 5 件登録)

ユーザーID : 最大半角 8 文字 (重複不可) (@は不可)
パスワード : 最大半角 16 文字 (重複可)

- 2) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意 TELNET 用のパスワードは別途変更する必要があります。

[keyCheck=1]です、TELNET で変数を変更して[keyCheck=0]にすると無効に
できます。また、変数「keyCode=""」としますと、本装置内部のキーファイル
をクリアしてデフォルトに戻すことができます。（デフォルト：キーファイル無
効）

3) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

<p>注意 「適用」をクリックしないと設定した内容が有効になりませ ん。</p>

2-2 通信設定

本装置のネットワークに関する設定をします。

2-2-1 通信基本設定

1) 「通信基本設定」をクリックします。通信基本設定画面が表示されます。

通信基本設定画面

ネットワーク設定	
IPアドレス	192.168.1.66
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1
DNSサーバーアドレス	192.168.1.1
DHCP機能	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
NTPサーバー	
NTP更新間隔	6 (1=10分)
HTTP機能	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
HTTPポート	80
TELNET機能	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
TELNETポート	23
TELNET中継先 IP	
TELNET中継先 ポート	23
リンク速度とDuplex	自動検知

※ネットワーク設定はCPUリセット後に有効になります。

関連項目	
無通信タイマー(秒)	600
WEB自動更新機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
WEB自動更新間隔(秒)	30
ダイレクトWEBコマンド制御	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効

PPPoE設定	
ISP名称	
PPPoE接続方法	<input type="radio"/> 常時 <input checked="" type="radio"/> コマンド
PPPoEユーザー名	
PPPoEパスワード	

適用 リセット

① ネットワーク設定

IPアドレス	デフォルト	: 192.168.10.1
サブネットマスク	デフォルト	: 255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	デフォルト	: 0.0.0.0
DNSサーバアドレス	デフォルト	: 0.0.0.0
DHCP機能		: 有効 無効
NTPサーバ	デフォルト	: 0.0.0.0
HTTP機能		: 有効 無効
HTTPポート	デフォルト	: 80
TELNET機能		: 有効 無効
TELNETポート	デフォルト	: 23
TELNET中継先IP	デフォルト	: 0.0.0.0
TELNET中継先ポート	デフォルト	: 23
リンク速度とDuplex	デフォルト	: 自動検知

② 関連項目

無通信タイマー	: 無通信の時間を設定します。
WEB自動更新機能	: 有効、無効を設定します。
WEB自動更新間隔	: WEB自動更新間隔の時間を設定します。
ダイレクトWEBコマンド制御	: 有効、無効を設定します。

③ PPPoE設定

ISP名称	: ISP名称を入力します。 全角31文字、半角英数字63文字以内
接続方法	: コマンド接続か常時接続かを選択します。
ユーザーID	: 指定されたユーザーIDを設定します。
パスワード	: 指定されたパスワードを設定します。

* PPPSTA や LOG コマンドで接続を確認できます。「PPPoEの使用」を参照

外部のネットワークから接続するため、IPアドレスを固定にしてルーターのポートフォワーディング機能を利用する場合は、DHCPを無効にします。

2) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意 DHCP 利用中、IP アドレスの取り直しが行われると本装置は自動的に CPURESET を行います。

2-2-2 通信詳細設定

SNMPに関する設定をします。

1) 「通信詳細設定」をクリックします。通信詳細設定画面が表示されます。

通信詳細設定画面

The screenshot displays the '通信詳細設定' (SNMP Configuration) screen. It features three main sections: 'SNMP基本設定', 'SNMPフィルター設定', and '状態通知機能'. Each section contains various configuration options, including community names, trap IP addresses, filter rules, and notification settings. Radio buttons are used to enable or disable functions, and text boxes are provided for entering specific values.

通信詳細設定

通信基本設定 | 通信詳細設定 | メール設定

※ 入力項目は半角英数のみ有効

SNMP基本設定

SET GET設定	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
GETコミュニティ名	public
SETコミュニティ名	public
TRAPコミュニティ名	public
マネージャートラップ	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
Authen Trap	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
トラップIPアドレス1	
トラップIPアドレス2	
トラップIPアドレス3	
トラップIPアドレス4	
トラップIPアドレス5	
トラップIPアドレス6	
トラップIPアドレス7	
トラップIPアドレス8	

※ネットワーク設定はCPUリセット後に有効になります。

SNMPフィルター設定

SNMPフィルター機能 有効 無効

	フィルターIPアドレス	フィルターマスク
1		255.255.255.255
2		255.255.255.255
3		255.255.255.255
4		255.255.255.255
5		255.255.255.255
6		255.255.255.255
7		255.255.255.255
8		255.255.255.255
9		255.255.255.255
10		255.255.255.255

状態通知機能

状態通知機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効	
1	通知先センターアドレス	
	通知先センターポート	5000
2	通知先センターアドレス	
	通知先センターポート	5000
3	通知先センターアドレス	
	通知先センターポート	5000
送信間隔(秒)	300	

一斉電源制御受付

機能有効とグループ指定

制御側MACアドレス制限

適用 | リセット

① SNMP基本設定

SETGET 設定		:	有効 無効
GET コミュニティ名	デフォルト	:	public
SET コミュニティ名	デフォルト	:	public
TRAP コミュニティ名	デフォルト	:	public
マネージャートラップ		:	有効 無効
AuthenTrap		:	有効 無効
トラップIPアドレス	デフォルト	:	255.255.255.255 (最大 8 IP アドレス)

② SNMPフィルター設定

SNMPフィルター機能		:	有効 無効
フィルターIPアドレス	デフォルト	:	0.0.0.0
フィルターマスク	デフォルト	:	255.255.255.255 (最大 10 アドレス)

③ 状態通知機能

状態通知機能		:	有効 無効
通知先センターアドレス 1-3	デフォルト	:	0.0.0.0
通知先センターポート 1-3	デフォルト	:	5000
送信間隔(秒)	デフォルト	:	300

状態通知機能については、「第 12 章 ネットワーク稼働監視」をご参照ください。

④ 一斉電源制御受付

機能有効とグループ指定		:	有効 1~8 グループ
制御側MACアドレス制御		:	

一斉電源制御

一斉電源制御機能とは、最大 8 グループに分けられた複数の本装置を、グループ単位に制御する機能のことです。ブロードキャストパケットを利用しています。一斉電源制御受付では、本装置をどのグループにするかを設定します。制御側MACアドレス制御を設定すると、設定した機器からの制御でのみ動作することになります。

2) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意 「適用」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。設定によっては、「CPU リセット」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。

2-2-3 メール設定

監視機能で異常時および復旧時にメールを送信するアドレスを設定します。

1) 「メール設定」をクリックします。

メール設定画面

メール設定

通信基本設定 通信詳細設定 **メール設定**

※ 入力項目は半角英数のみ有効

メールサーバ設定

ユーザー名	<input type="text"/>
パスワード	<input type="password"/>
メールアドレス	<input type="text"/>
POP3サーバ名	<input type="text"/>
SMTPサーバ名	<input type="text"/>
自動ログアウト時間(分)	<input type="text" value="10"/>
メールチェック間隔(分)	<input type="text" value="3"/>
タイムアウト時間(秒)	<input type="text" value="10"/>
POP3ポート	<input type="text" value="110"/>
SMTPポート	<input type="text" value="25"/>
SMTP認証 (CRAM-MD5)	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
パスワード暗号化 (APOP)	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効

メール制御コマンド有効

メール制御パスワード

メール制御許可アドレス

送信メール 件名	<input type="text" value="機器名称"/>
送信メール 本文1行目	<input type="text" value="設置場所"/>
送信メール 本文2行目	<input type="text" value="機器IPアドレス"/>
送信メール 本文3行目	<input type="text" value="MACアドレス"/>
送信メール 本文4行目	<input type="text" value="イベント内容"/>

通知先設定

No.	通知先アドレス	死活	温度	PPPoE
アドレス1	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス2	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス3	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス4	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス5	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス6	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス7	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス8	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ログ送信カウント

[送信テスト画面へ](#)

エラーメッセージ情報

① メールサーバ設定

ユーザー名、パスワード、メールアドレス、POPサーバ名、SMTPサーバ名は、プロバイダからのメール資料に基づき設定します。

自動ログアウト時間(分) デフォルト : 10

メールチェック間隔(分) デフォルト : 3

メールリトライ間隔(秒) デフォルト : 10

(変数 mailRetryCount で設定した回数送信します。デフォルト : 3回)

POP3ポート デフォルト : 110

SMTPポート デフォルト : 25

APOP利用 : 有効 無効

SMTP-AUTH利用 : 有効 [CRAM-MD5]
無効

メール制御コマンド有効 6章 4. メールからのコマンド参照

無効 : メール制御を無効にします。

ログイン方式 : ログイン方式でメール制御を実行します。

パスワード方式 : パスワード方式でメール制御を実行します。
(デフォルト : 空)

メール制御パスワード : パスワードを入力します。

(メール制御コマンド有効でパスワード方式を選択した時、表示します。)

メール制御許可アドレス

制限なし : 制限なしでメール制御許可します。

通知先アドレスのみ : 通知先アドレスのみメール制御許可します。

送信メール 件名 6点より選択

送信メール 本文1行目 表示無し 機器名称

送信メール 本文2行目 設置場所 機器IPアドレス

送信メール 本文3行目 MACアドレス イベント内容

送信メール 本文4行目

② 通知先設定

通知先アドレス

通知するメールアドレスを設定します。

最大8件設定できます。

イベント

チェックしたイベントに連動してメールが送信されます。例えば、「死活」では死活監視が[異常]または[回復]に変化した時にメールを送信します。

PPPoE

チェックをつけたアドレスに、PPPoE通信で取得したIPアドレスなどの情報をメールします。

ログ送信カウント : 設定した数だけログが更新されると通知先アドレスにログを送信します。

(MAX : 20 0の時は送信しません。)

③ エラーメッセージ情報

メールに失敗したエラー情報を表示します。

クリアにチェックして「適用」をクリックすると消去できます。

2) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

3) 「送信テスト画面へ」をクリックし、送信テスト画面を表示させテストメール送信の「送信」をクリックすると設定されている通知先アドレスにテストメールを送信します。

送信テスト画面

送信テスト

Wake On LAN 送信テスト

アウトレット1		送信
アウトレット2		送信
アウトレット3		送信
アウトレット4		送信

メール送信テスト

テストメール送信 送信

[エラーメッセージ確認](#)

注意

「適用」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。設定によっては、「CPU リセット」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。

メール送信のみの利用で POP 認証を行わない場合でも、ユーザー名、パスワードは必要です。ダミーデータを設定してください。

設定したメールアドレスのメールサーバ内のメールは、メールチェック間隔でメールサーバ内のメールをチェックした後、削除されます。

2-3 監視設定

本装置の監視に関する設定をします。

2-3-1 P I N G 監視

1) 「監視設定」をクリックします。P I N G 監視設定画面が表示されます。

P I N G 監視設定画面

監視設定

PING監視 POPサーバー監視 温度監視

詳細設定 ※ 入力項目は半角英数のみ有効

監視先	DG	送信	無答
1	<input type="checkbox"/>	10	10

▲ アウトレット番号

監視先	DG	送信	無答
1	<input type="checkbox"/>	10	10

▲ アウトレット番号

監視先	DG	送信	無答
1	<input type="checkbox"/>	10	10

▲ アウトレット番号

監視先	DG	送信	無答
1	<input type="checkbox"/>	10	10

▲ アウトレット番号

PING 送信間隔 (分) 1

死活監視レポートによる警告 (回) 12

※PILOT LEDを赤点灯させる全アウトレットの死活監視レポート回数

回復不可時の1時間ごとの繰り返し回数制限 (回)

1	0	2	0	3	0	4	0
---	---	---	---	---	---	---	---

※0:無制限

・(監視先)に対してICMPを(PING 送信間隔)分毎に1個送信します。
・(送信)回数内に(無答)回数回、応答が無いと異常と判断し(動作)を実行します。

・DGをチェックする事により、Default Gateway(ルータ等)を監視対象にします。

・アウトレット電源OFFの場合はPING監視は行いません。

・レポート復旧しない場合1時間毎に動作を繰り返します。

適用 リセット

「詳細設定」にチェックし、「適用」をクリックします。PING監視詳細設定画面が表示されます。

PING監視詳細設定画面

監視設定

PING監視
POPサーバー監視
温度監視

詳細設定
 ※ 入力項目は半角英数のみ有効

監視先	DG	送信	無答	対象
1	<input type="checkbox"/>	10	10	1
2	<input type="checkbox"/>			
3	<input type="checkbox"/>	動作	回数	間隔
4	<input type="checkbox"/>	無動作	1	1

▲ アウトレット番号

監視先	DG	送信	無答	対象
1	<input type="checkbox"/>	10	10	1
2	<input type="checkbox"/>			
3	<input type="checkbox"/>	動作	回数	間隔
4	<input type="checkbox"/>	無動作	1	1

▲ アウトレット番号

監視先	DG	送信	無答	対象
1	<input type="checkbox"/>	10	10	1
2	<input type="checkbox"/>			
3	<input type="checkbox"/>	動作	回数	間隔
4	<input type="checkbox"/>	無動作	1	1

▲ アウトレット番号

監視先	DG	送信	無答	対象
1	<input type="checkbox"/>	10	10	1
2	<input type="checkbox"/>			
3	<input type="checkbox"/>	動作	回数	間隔
4	<input type="checkbox"/>	無動作	1	1

▲ アウトレット番号

PING 送信間隔 (分)

死活監視レポートによる警告 (回)

※ PILOT LEDを赤点灯させる全アウトレットの死活監視レポート回数

回復不可時の1時間ごとの繰り返し回数制限 (回)

1	<input style="width: 30px;" type="text" value="0"/>	2	<input style="width: 30px;" type="text" value="0"/>	3	<input style="width: 30px;" type="text" value="0"/>	4	<input style="width: 30px;" type="text" value="0"/>
---	---	---	---	---	---	---	---

※0:無制限

・(監視先)に対してICMPを(PING 送信間隔)分毎に1個送信します。
 (送信)回数内に(無答)回数回、応答が無いと異常と判断します。
 異常と判断した監視先が(対象)数に達すると異常と判定し(動作)を実行します。

・DGをチェックする事により、Default Gateway(ルータ等)を監視対象にします。
 ・アウトレット電源OFFの場合はPING監視は行いません。
 ・動作後も応答がない場合は、動作を(間隔)分間隔で(回数)回行い、以降は1時間周期で動作を繰り返します。

適用
リセット

- ① 監視先： 監視するIPアドレス又はドメイン名を設定します。
各アウトレットに最大4ヶ所設定できます。(詳細設定のみ)
例 IPアドレス : 192.168.0.1
例 ドメイン名 : www.meikyo.co.jp
- ② DG： チェックでデフォルトゲートウェイを監視先に指定します。
- ③ 送信： 判断するための送信する回数を設定します。
1～100の整数
- ④ 無答： 送信回数内で異常と判断する無応答回数を設定します。
1～100の整数
- ⑤ 対象： 動作を実行させるための異常な監視先アドレスの数を設定します。
1～4 (詳細設定のみ)

- ⑥ 動作： 動作を選択します。
 無動作　：P I N G監視を行いません。
 リポート　：ログに記録し、電源出力をOFF / ONします。
 ログのみ　：ログに記録します。電源は制御しません。
- ⑦ P I N G 送信間隔（分）： I C M P エコー要求パケットの送信間隔を設定します。1～60の整数
- ⑧ 死活監視リポートによる警告（回）： デフォルト　12回
 P I L O T　L E Dを点滅させる全アウトレットの死活監視リポート回数
- ⑨ 回復不可時の1時間ごとの繰り返し回数制限（回）　：デフォルト　0（無制限）

2) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

監視設定が有効なアウトレットはアウトレット番号の背景色が「青色」に変わります。

また、P I N G 監視が正常な場合は監視番号の背景色が「青色」に変わり、異常が発生している場合は「赤色」、回復中は「黄色」に変わります。

注意　「動作」実行後、応答のない状態が続く場合は、約 1 時間毎に設定された動作を実行します。「異常」中は、再度、条件が成立しても動作は 1 時間に 1 度しか実行しません。

P I N G 監視の仕組みと動作

監視先アドレスに対して [PING 送信間隔] で設定した間隔で I C M P エコー要求パケットを 1 個送出し、応答を待ちます。設定した[送信]回数内で設定した[無答]回数、無応答であるとその監視先を異常と判断します。異常と判断された監視先が[対象]数に達すると、そのアウトレットを異常と判定し、設定した[動作]を実行します。

判定例) 送信回数：5 無答回数：3 の場合

 応答　有 → 無 → 有 → 無 → 有 → 無 → 異常と判断

 正常　┌──────────────────┐

 異常　┌──────────────────┐

異常と判断した監視先が、対象数に達すると、アウトレットを異常と判定し動作します。

異常と判定した後、

 監視先すべてから応答があると→「正常」と判定します。

 一部の監視先から応答があり、異常と判断した監視先が対象数を下回ると→「回復中」と判定します。

 「正常」「回復中」になった後は、再び、同じ条件で監視を行います。

2-3-2 POPサーバ監視

- 1) 「POPサーバ監視」をクリックします、POPサーバ監視設定画面が表示されます。

POPサーバ監視設定画面

監視設定

PING監視 POPサーバ監視 温度監視

POPサーバが設定されていません。

POPサーバ監視 1 接続障害回数 0 回 動作 ※動作はPING監視と共通 無動作 ▲ アウトレット番号

POPサーバ監視 2 接続障害回数 0 回 動作 ※動作はPING監視と共通 無動作 ▲ アウトレット番号

POPサーバ監視 3 接続障害回数 0 回 動作 ※動作はPING監視と共通 無動作 ▲ アウトレット番号

POPサーバ監視 4 接続障害回数 0 回 動作 ※動作はPING監視と共通 無動作 ▲ アウトレット番号

現在のPOPサーバ設定	
POPサーバ接続障害回数	0
メールチェック間隔(分)	3

適用 リセット

① POPサーバ監視

接続障害回数 : POPサーバを異常と判断する回数を設定します。

動作 : 無動作 : 監視を行いません。

リポート : ログに記録し、電源出力をOFF/ONします。

ログのみ : ログに記録します。電源は制御しません。

動作はPING監視と共通の設定になります。

② 現在のPOPサーバ設定

POPサーバ接続障害回数 : POPサーバ接続障害回数を表示します。

メールチェック間隔(分) : POPサーバのチェック間隔
デフォルト 3分

- 2) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意 POPサーバ監視を行う場合はPOP 3サーバの設定が必要になります。POPサーバ監視とPING監視(または温度監視)の両方を設定すると、いずれかが異常になった時点で動作を実行します。

2-3-3 温度監視

1) 「温度監視」をクリックします、温度監視設定画面が表示されます。

温度監視設定画面

監視設定							
PING監視		POPサーバー監視		温度監視			
<input checked="" type="checkbox"/> 温度センサーを利用する		<input type="checkbox"/> メンテナンスモード					
1	動作しません。	動作 無動作	▲ アウトレット番号	3	動作しません。	動作 無動作	▲ アウトレット番号
2	動作しません。	動作 無動作	▲ アウトレット番号	4	動作しません。	動作 無動作	▲ アウトレット番号
指定温度設定				温度状態			
上限警報	45	下限警報	-5	正常			
上限注意	35	下限注意	0	26.5 °C			
上限Hys	2	下限Hys	2				
適用				リセット			

2) 本装置と温度センサー（別売）を接続します。

① 温度に関する設定をします。

- 上限警報 : 高温の警報温度を設定します。
(デフォルト: 45°C)
- 上限注意 : 高温の注意温度を設定します。
(デフォルト: 35°C)
- 上限Hys : 高温のヒステリシス温度を設定します。
(デフォルト: 2°C)
- 下限警報 : 低温の警報温度を設定します。
(デフォルト: -5°C)
- 下限注意 : 低温の注意温度を設定します。
(デフォルト: 0°C)
- 下限Hys : 低温のヒステリシス温度を設定します。
(デフォルト: 2°C)
- 動作 : 警報の時の動作を設定します。
無動作 上限警報ON 下限警報ON
 上限警報OFF 下限警報OFF

② 温度範囲（測定温度範囲は-10~80℃）

- 正常範囲 ： 下限注意から上限注意までの温度
- 注意範囲 ： 上限注意から上限警報までの温度
 ： 下限警報から下限注意までの温度
- 異常範囲 ： 上限警報以上の温度
 ： 下限警報以下の温度

3) 温度センサーを利用する

チェックすると温度センサーが利用でき、温度データを表示します。

4) メンテナンス

チェックすると電源制御を行わない

注意 「温度監視」を設定すると、「PING 監視」は設定できません。

温度監視の仕組みと動作

状態は、指定した温度により、「正常」から「注意」、「注意」から「警報」に変化します。しかし、「警報」から「注意」、「注意」から「正常」への状態変化には、に指定した温度にヒステリシス温度を加えた変化が必要です。これにより閾値近辺で状態が頻繁に変化することを防ぎます。メールは、温度にチェックがあると、「正常」「注意」「警報」の状態に変化すると送信されます。電源制御は、「警報」になった場合に実施されます。


2-4 スケジュール設定

本装置のスケジュールに関する設定をします。最大20件登録できます。

1) 「スケジュール設定」をクリックします。

スケジュール設定画面

スケジュール設定

 NTPサーバーへの接続に失敗しています。
時刻が未設定または不正確な場合があります。

スケジュールリスト

No.	有効	アウトレット	曜日	時	分	動作
1	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
2	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
3	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
4	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
5	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
6	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
7	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
8	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
9	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
10	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
11	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
12	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
13	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
14	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
15	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
16	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
17	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
18	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
19	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
20	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作

注意！ 仮想アウトレットの場合、「電源OFF」「リブート」では動作しません。「電源ON」のみ動作します。

- ① 有効 : 設定したタイマの有効/無効
チェックした No.が有効になります。

- ② アウトレット : 制御するアウトレット No.
全アウトレット、アウトレット1~4
全仮想アウトレット、仮想アウトレット1~8

- ③ 曜日 : 実行する曜日（毎日または指定曜日）
毎日 日曜 月曜 火曜 水曜
木曜 金曜 土曜

- ④ 時 : 実行する時間
0 ~ 23

- ⑤ 分 : 実行する分
0 ~ 59
- ⑥ 動作 : 実行する動作
無動作 リポート 電源ON 電源OFF
(仮想アウトレットではONのみ有効)

2) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

<p>注意 スケジュール設定を使う場合はNTP サーバの設定が必要になります。基本設定で設定してください。 NTP サーバの接続に失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。</p>
--

2-5 システム情報

本装置に設定された各項目の概要情報を一覧で確認できます。

- 1) 「システム情報」をクリックします。

システム情報画面

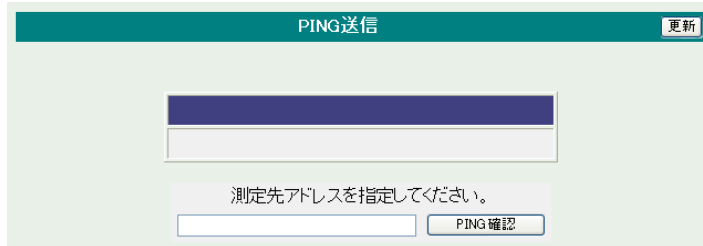
システム情報		更新
システム基本		
機器名称	Noname	
バージョン	1.40A.110406	
モデル名	RPC-M4H	
アウトレット1名称	Outlet1	
アウトレット2名称	Outlet2	
アウトレット3名称	Outlet3	
アウトレット4名称	Outlet4	
機器内部時間		
仮想アウトレット1名称		
仮想アウトレット2名称		
仮想アウトレット3名称		
仮想アウトレット4名称		
仮想アウトレット5名称		
仮想アウトレット6名称		
仮想アウトレット7名称		
仮想アウトレット8名称		
MACアドレス	00:09:EE:00:01:28	
IPアドレス	192.168.1.65	
サブネットマスク	255.255.255.0	
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1	
NTPサーバーアドレス	(NG)	
HTTP機能	有効	
HTTPポート	80	
TELNET機能	有効	
TELNETポート	23	
LAN接続速度	100.0Mbps	
RS-232C 通信速度	38400bps	
RS-232C キャラクター長	8 bits	
RS-232C ストップビット	1 bit(s)	
RS-232C パリティ	None	

2-6 P I N G送信

本装置からのP I N G送信の確認できます。

- 1) 「P I N G送信」をクリックします。

P I N G送信画面



- ① 「測定先アドレスを指定してください。」の欄に測定先アドレスを入力し、「P I N G確認」をクリックして下さい。
- ② 測定中は「測定中」の表示がされます。
- ③ 測定結果が表示されます。

正常 : Reply from xxx.xxx.xxx.xxx --- time=yyms
xxx.xxx.xxx.xxx : 測定先アドレス
yy : 応答時間(ミリ秒)

異常 : Request timed out.
応答が異常時

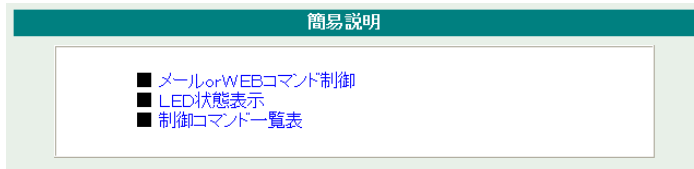
異常 : Domain name not found.
ドメイン名が存在しない

2-7 簡易説明

本装置の簡易説明が確認できます。

1) 「簡易説明」をクリックします。

簡易説明画面



メール orWEBコマンド制御

メールからの制御

ログイン方式

パスワード方式

WEB からダイレクトコマンド制御

WEB コマンドでの制御方法

利用可能コマンド

LED状態表示

OUTLET LED 電源操作時

PILOT LED 状態通知機能

LINK ACT LED LAN 接続関係

制御コマンド一覧表

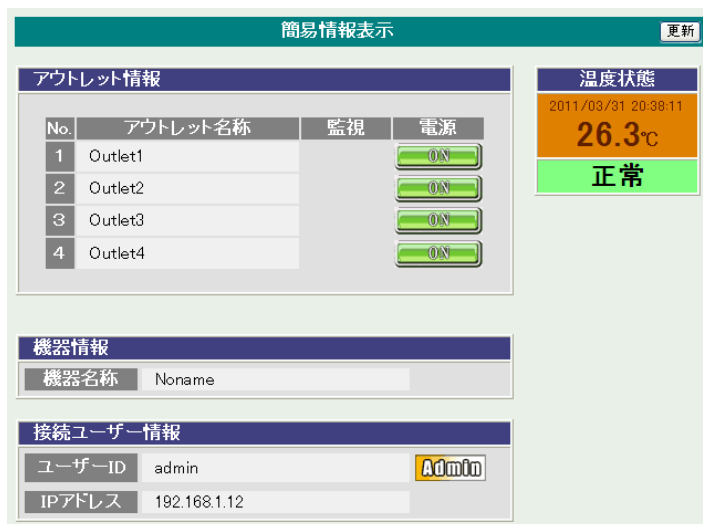
制御コマンド 内容

3. 状態表示項目

3-1 簡易情報表示

現在の本装置の電源情報、温度状態を表示します。

簡易情報表示画面



簡易情報表示

更新

No.	アウトレット名称	監視	電源
1	Outlet1		ON
2	Outlet2		ON
3	Outlet3		ON
4	Outlet4		ON

温度状態

2011/03/31 20:38:11

26.3℃

正常

機器情報

機器名称 Noname

接続ユーザー情報

ユーザーID admin Admin

IPアドレス 192.168.1.12

注意 簡易情報表示は現在の本装置の状態を表示する画面で実際に制御することは出来ません。
温度センサーを「有効」に設定しませんでしたと温度状態は表示されません。

3-2 監視状態表示

現在の本装置の監視状態を表示します。

- 1) 「監視状態表示」をクリックします。

監視状態表示画面

監視状態表示
更新

▲ アウトレット監視状態/判定条件

No.	電源	死活判定 温度判定	実行数 現在温度	送信数 動作設定	無応答 警報温度	対象数 注意温度	動作 Hys温度
1	ON	正常	0	10	10	1	無動作
2	ON	正常	0	10	10	1	無動作
3	ON	正常	0	10	10	1	無動作
4	ON	正常	0	10	10	1	無動作

▲ アウトレット番号

▲ 監視先状態

No.	監視先1		監視先2		監視先3		監視先4	
	状態	無応答数	状態	無応答数	状態	無応答数	状態	無応答数
1								
2								
3								
4								

▲ アウトレット番号

▲ PING応答時間

No.	監視先1	監視先2	監視先3	監視先4
	応答時間	応答時間	応答時間	応答時間
1				
2				
3				
4				

▲ アウトレット番号

機器情報

POPサーバー接続障害回数	0
---------------	---

① アウトレット監視状態/判定条件

- 電源 : 電源の状態を表示します。
- 死活判定 : PING 監視および POP サーバ監視の判定結果を表示します。
正常 : 異常な監視先が対象数未満、かつ POP サーバ正常。
異常 : 異常な監視先が対象数以上、あるいは POP サーバ異常。
回復中 : 動作後、異常な監視先が対象数未満だが、異常な監視先が残っている。POP サーバは正常。
- 温度判定 : 温度監視の判断結果を表示します。
- 実行数 : PING 監視と POP サーバ監視の実行された動作の回数を表示します。
- 現在温度 : 温度監視の現在温度を表示します。
- 送信数 : PING 監視の PING 送信回数設定値を表示します。
- 動作設定 : 温度監視の動作設定を表示します。
- 無応答 : PING 監視の無応答回数設定値を表示します。
- 警報温度 : 温度監視の警報温度を表示します。
- 対象数 : PING 監視の対象数設定値を表示します。
- 注意温度 : 温度監視の注意温度を表示します。
- 動作 : PING 監視と POP サーバ監視の動作を表示します。
- Hys 温度 : 温度監視のヒステリシス温度を表示します。

② 監視先状態

- 状態 : アウトレット毎に各監視先の応答状態を表示します。
- 無応答数 : ICMP エコー要求送信に対する無応答回数を表示します。

③ PING応答時間

- 応答時間 : 監視先の応答時間を表示します。

④ 機器情報

- POPサーバ接続障害回数 : POPサーバへの接続障害回数を表示します。

3-3 イベントログ表示

現在までのイベントログ表示を表示します。

- 1) 「イベントログ表示」をクリックします。

イベントログ表示画面

No.	日時	内容	情報	接続者
1	2010/08/07 14:10:49	ログ開始		
2	2010/08/07 14:10:53	TELNET接続	192.168.1.11	
3	2010/08/07 14:11:02	TELNETログイン	192.168.1.11	
4	2010/08/07 14:11:11	TELNETログインせず切断	192.168.1.11	
5	2010/08/07 14:11:41	UTY接続	192.168.1.11	
6	2010/08/07 14:11:41	UTYログイン	192.168.1.11	admin
7	2010/08/07 14:11:41	UTYログインせず切断	192.168.1.11	admin
8	2010/08/07 14:12:15	WEBアクセス	192.168.1.11	
9	2010/08/07 14:12:23	WEBログイン	192.168.1.11	admin
10	2010/08/07 14:12:23	設定書込(WRITE)		admin
11	2010/08/07 14:22:56	WEBログアウト	192.168.1.11	
12	2010/08/07 20:53:02	WEBアクセス	192.168.1.11	
13	2010/08/07 20:57:44	WEBアクセス	192.168.1.11	
14	2010/08/07 20:57:44	WEBログイン	192.168.1.11	admin

- 2) 「更新」を押すと最新状態に更新します。

- ① 前ページ : 前ページを表示します。
- ② 次ページ : 次ページを表示します。
- ③ 先頭ページ : 先頭ページを表示します。
- ④ 最終ページ : 最終ページを表示します。
- ⑤ 全ログクリア : ログを消去します。

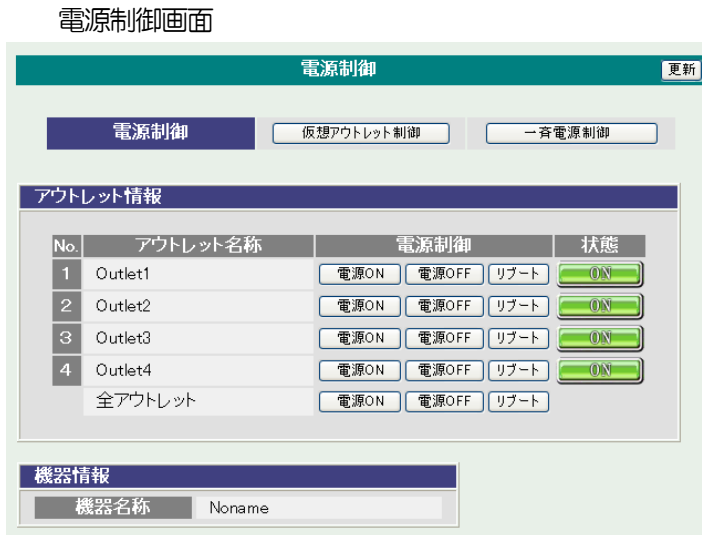
注意 1 ページは 100 項目単位で表示します。最大 10 ページ、1000 項目のログを表示可能です。

4. 電源制御

本装置に接続されたデバイスの電源制御をします。

4-1 電源制御

1) 「電源制御」をクリックします。



①電源状態

現在の電源の状態を表します。
(更新されないと最新の状態が表示されません。)

②個別アウトレット制御の動作

- 電源ON : 電源出力を開始します。
- 電源OFF : 電源出力を停止します。
- リポート : 電源出力をOFF / ONします。

③ 全アウトレット制御の動作

- 電源ON : 全アウトレットの電源出力を開始します。
- 電源OFF : 全アウトレットの電源出力を停止します。
- リポート : 全アウトレットの電源出力をOFF / ONします。

2) 「更新」をクリックすると最新の電源状態を取得します。

4-2 仮想アウトレット制御

1) 「仮想アウトレット制御」をクリックします。

仮想アウトレット制御画面

No.	仮想アウトレット名称	電源制御
1		電源ON
2		電源ON
3		電源ON
4		電源ON
5		電源ON
6		電源ON
7		電源ON
8		電源ON
全仮想アウトレット		電源ON

機器情報

機器名称 Noname

仮想アウトレット

仮想アウトレットとは、実際には存在しないアウトレットであり、関連付けされた MAC アドレスへマジックパケットを送出して、WakeOnLAN 機能を実現させるためのものです。

①個別仮想アウトレット制御の動作

電源 ON : マジックパケットを送出します。

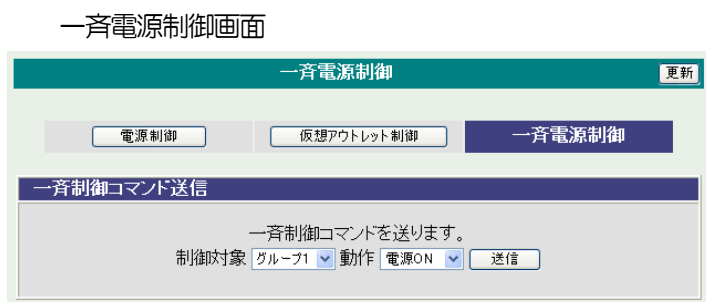
② 全仮想アウトレット制御の動作

電源 ON : 全仮想アウトレットへマジックパケットを送出します。

注意 「更新」をクリックしないと画面表示とアウトレットが違う場合がありますので電源状態は「更新」をクリックして最新の状態を確認してください。
全アウトレット ON の時、個別アウトレットは1秒の間隔でONします。(遅延時間、デフォルト)
リポートのOFF時間は10秒です。(デフォルト)
遅延時間、OFF時間及びOFF禁止などの設定は変数の変更により可能です。

4-3 一斉電源制御

1) 「一斉電源制御」をクリックします。



一斉電源制御

一斉電源制御とは、複数の本装置を最大8グループ分けて、各グループ単位で一斉制御コマンドを送り、電源を制御することが出来ます。

- | | | |
|------|---|---------------------------|
| 制御対象 | : | 制御するグループを選択します。 |
| 動作 | : | 実行する動作
電源ON 電源OFF リポート |
| 送信 | : | 一斉制御コマンドを送信します。 |

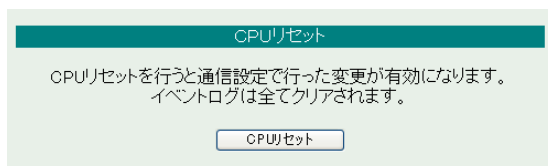
注意 「更新」をクリックしないと画面表示とアウトレットが違う場合がありますので電源状態は「更新」をクリックして最新の状態を確認してください。全アウトレットONの時、個別アウトレットは1秒の間隔でONします。(遅延時間、デフォルト)
リポートのOFF時間は10秒です。(デフォルト)
遅延時間、OFF時間及びOFF禁止などの設定は変数の変更により可能です。

5. CPUリセット

本装置の設定変更を有効にします。

- 1) 「CPUリセット」をクリックします。

CPUリセット画面



- 2) CPUリセット画面の「CPUリセット」をクリックします。

注意 CPUリセットを必要とする内容の場合、「設定項目」の「CPUリセット」の背景色が黄色になります。
「CPUリセット」をクリックすると設定した内容が有効になり、通信が切断されますが、アウトレットの状態は現状のまま保持されます。

第5章 その他の設定

1. TELNETによる設定

- 1) RPCサーチソフトで検索した機器を選択し、「TELNET接続」ボタンをクリックする。または「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択し、テキストボックスを開きます。「初期設定」で設定したIPアドレスを以下のように指定し、本装置にアクセスします。

192.168.10.1 の場合

IPアドレス : 192.168.10.1
TELNET ポート番号 : 23

「telnet_192.168.10.1_23」

※アンダーバーはスペースを表します。

- 2) プログラムが起動し、下図のとおり表示されます。
「Noname」は機器名称の設定が反映されます。

```
220  RPC-M4H (Noname) server ready
```

- 3) 任意のキーを入力します。パスワードが要求されます。
- 4) パスワード（デフォルト：magic）を入力し、<Enter>キーで実行します。
「OK」の応答があります。

注意 ブラウザ接続時のパスワードとTELNET接続時のパスワードは別になります。TELNET接続時とシリアル接続時のパスワードは共通になります。PASSコマンドで変更してください。デフォルトのままですとセキュリティホールになる危険があります。

1-1 TELNETコマンドによる設定

- 1) RPCサーチソフトを起動し、「検索」ボタンをクリック検索した機器を選択し、「TELNET接続」ボタンをクリックする。または「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択し、テキストボックスを開きます。「初期設定」で設定したIPアドレスを指定し、本装置にアクセスします。
- 2) 設定します。コマンドや変数などを入力し<Enter>キーで実行します。
(IPアドレスなど一部の設定はCPUリセット後に反映されます。)

■ TELNET 通信の設定関係コマンド

コマンド	内 容
LIST	全ての変数の値を表示します。
WRITE	変数の設定を FROM に書き込みます。
&SAVE	設定された変数の待避・復元ができるデータを出力します。
LOAD_BEGIN	設定データの読み込みを始めます。
LOAD_END	設定データの読み込みを終了します。
?変数名	変数の値を表示します。
.変数名=値	変数を設定し、設定された変数を表示します。
CPURESET	CPU をリセットします。(電源状態は変化しません。)
MENU	メニュー画面に切り替わります。

※変数については「[■変数一覧表](#)」参照

■ 「&SAVE」コマンドについて

環境(変数全体)を一括して待避・復元するためのコマンドです。

「&SAVE」を実行すると、最初に「LOAD_BEGIN」、それに続いて一連の変数設定コマンド、最後に「LOAD_END」をテキストデータとして出力します。このテキストデータを設定データとして保存し、のちに送信しますと、保存した設定になります。TELNET用のパスワードなど、いくつかの変数は保存されませんのでご注意ください。設定データをテキストエディタで変更して利用することもできます。なお、「&SAVE」には、エコーバックがありません。変数設定コマンドでは、エラーがあっても無くても表示しません。長いコマンドは分割されます。(最後にハイフンがあると、次に継続することを意味します。)ファイルからのコマンドを実行するときは、「promptMode」を0または1とします。

■ プロンプトやコマンドについて

TELNET からアクセスしたときは、コマンド入力のプロンプトが表示されます。プロンプト表示の有無または表示形式は、コマンドで指定します。制御ユーティリティでは、常に「>」のプロンプトが表示されます。また、「?」だけのコマンドにより、ヘルプとしてコマンドの一覧を表示します。どのコマンドでも最初に「&」をつけることによりエコーバックが無くなります。設定の取得、書き込みのときは、「promptMode」を 0 または 1 とします。

変数名	:	promptMode
値	:	0 (プロンプト表示無し)
	:	1 (「>」のプロンプト表示)
	:	2 (「 機器名 > 」のプロンプト表示)

2. ターミナルソフトによる設定

1) 本体前面のCOMポートと設定用PCのCOMポートをパソコン用クロスケーブル (D s u b 9ピンメス) で接続します。

2) ターミナルソフトを起動し、ポート設定をします。

通信速度	:	38400bps
データビット	:	8ビット
ストップビット	:	1ビット
パリティ	:	なし

3) 任意のキーを入力します。パスワードが要求されます。

4) パスワード (デフォルト : magic) を入力し、<Enter>キーで実行します。「OK」の応答があります。

5) 設定します。
コマンドや変数などを入力し<Enter>キーで実行します。

6) 設定内容を有効化します。
「write」コマンドを入力し、<Enter>キーを押します。

注意	設定変更後は、必ず「write」コマンドを実行してください。コマンドがないと設定が反映されません。また項目によりCPUリセット後に設定が反映されます。設定は「CPURESET」コマンドまたは本体 RESET ボタン押下後に反映されます。CPUリセットにより履歴は消去されます。
-----------	--

7) 設定終了後、ターミナルソフトを閉じます。

シリアル通信のコマンドは TELNET と共通です。ただし PASS コマンドはご利用いただけません。

第6章 その他の制御

1. TELNET 接続による制御

本装置は TELNET サーバプログラムへ接続して、遠隔から電源制御および状態取得ができます。セキュリティ制御の設定がされている場合はその制限内での操作となります。

1-1 TELNET 接続による制御

- 1) RPCサーチソフトで検索した機器を選択し、「TELNET 接続」ボタンをクリックする。または「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択し、テキストボックスを開きます。「初期設定」で設定した IP アドレスを以下のように指定し、本装置にアクセスします。

192.168.10.1 の場合

IP アドレス : 192.168.10.1
TELNET ポート番号 : 23

「telnet_192.168.10.1_23」

※アンダーバーはスペースを表します。

- 2) プログラムが起動し、下図のとおり表示されます。
「Noname」は機器名称の設定が反映されます。

```
220  RPC-M4H (Noname) server ready
```

- 3) 任意のキーを入力します。パスワードが要求されます。
- 4) パスワード（デフォルト：magic）を入力し、<Enter>キーで実行します。
「OK」の応答があります。
- 5) 制御コマンドを入力して、<Enter>キーで実行します。

注意 TELNETによりログイン中にも、他のTELNETからログインすることができます。LOGコマンドで履歴を確認するなどして操作が重ならないようご注意ください。

■ 制御コマンド一覧表

制御コマンド	内 容																																								
MPON	全アウトレットの電源出力開始																																								
MPOF	全アウトレットの電源出力停止																																								
MPOR	全アウトレットのリブート（電源リブート）																																								
PONn	指定されたアウトレットの電源出力開始 n=1~4																																								
POFn	指定されたアウトレットの電源出力停止 n=1~4																																								
PORn	指定されたアウトレットのリブート（電源リブート） n=1~4																																								
PSRn	指定されたアウトレットの電源状態反転																																								
MPONV	全仮想アウトレットにマジックパケットを送信する。																																								
PONVx	(xは1~8) debWakeupInterval 後にマジックパケットを送信する。																																								
OLSn	<p>死活監視状態の表示 n=1~4</p> <p>nを省略すると全てのアウトレットを表示します。 コンマ区切りで表示。</p> <table border="0"> <tr> <td>Outlet No.</td> <td>アウトレット番号[1~4]</td> </tr> <tr> <td>Power</td> <td>電源状態[0:Off 1:On]</td> </tr> <tr> <td>Judge</td> <td>判定[1:正常 2:異常 3:回復中]</td> </tr> <tr> <td>Action Count</td> <td>Action 実行回数</td> </tr> <tr> <td>Last Ping1</td> <td>アドレス1の最後の応答[1:正常 2:異常]</td> </tr> <tr> <td>NoEchoCount1</td> <td>アドレス1の未応答回数</td> </tr> <tr> <td>NoEchoTime1</td> <td>アドレス1の応答時間 (ms)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>[0:未設定 1:応答時間 9999:未応答]</td> </tr> <tr> <td>Last Ping2</td> <td>アドレス2の最後の応答[1:正常 2:異常]</td> </tr> <tr> <td>NoEchoCount2</td> <td>アドレス2の未応答回数</td> </tr> <tr> <td>NoEchoTime2</td> <td>アドレス2の応答時間 (ms)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>[0:未設定 1:応答時間 9999:未応答]</td> </tr> <tr> <td>Last Ping3</td> <td>アドレス3の最後の応答[1:正常 2:異常]</td> </tr> <tr> <td>NoEchoCount3</td> <td>アドレス3の未応答回数</td> </tr> <tr> <td>NoEchoTime3</td> <td>アドレス3の応答時間 (ms)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>[0:未設定 1:応答時間 9999:未応答]</td> </tr> <tr> <td>Last Ping4</td> <td>アドレス4の最後の応答[1:正常 2:異常]</td> </tr> <tr> <td>NoEchoCount4</td> <td>アドレス4の未応答回数</td> </tr> <tr> <td>NoEchoTime4</td> <td>アドレス4の応答時間 (ms)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>[0:未設定 1:応答時間 9999:未応答]</td> </tr> </table>	Outlet No.	アウトレット番号[1~4]	Power	電源状態[0:Off 1:On]	Judge	判定[1:正常 2:異常 3:回復中]	Action Count	Action 実行回数	Last Ping1	アドレス1の最後の応答[1:正常 2:異常]	NoEchoCount1	アドレス1の未応答回数	NoEchoTime1	アドレス1の応答時間 (ms)		[0:未設定 1:応答時間 9999:未応答]	Last Ping2	アドレス2の最後の応答[1:正常 2:異常]	NoEchoCount2	アドレス2の未応答回数	NoEchoTime2	アドレス2の応答時間 (ms)		[0:未設定 1:応答時間 9999:未応答]	Last Ping3	アドレス3の最後の応答[1:正常 2:異常]	NoEchoCount3	アドレス3の未応答回数	NoEchoTime3	アドレス3の応答時間 (ms)		[0:未設定 1:応答時間 9999:未応答]	Last Ping4	アドレス4の最後の応答[1:正常 2:異常]	NoEchoCount4	アドレス4の未応答回数	NoEchoTime4	アドレス4の応答時間 (ms)		[0:未設定 1:応答時間 9999:未応答]
Outlet No.	アウトレット番号[1~4]																																								
Power	電源状態[0:Off 1:On]																																								
Judge	判定[1:正常 2:異常 3:回復中]																																								
Action Count	Action 実行回数																																								
Last Ping1	アドレス1の最後の応答[1:正常 2:異常]																																								
NoEchoCount1	アドレス1の未応答回数																																								
NoEchoTime1	アドレス1の応答時間 (ms)																																								
	[0:未設定 1:応答時間 9999:未応答]																																								
Last Ping2	アドレス2の最後の応答[1:正常 2:異常]																																								
NoEchoCount2	アドレス2の未応答回数																																								
NoEchoTime2	アドレス2の応答時間 (ms)																																								
	[0:未設定 1:応答時間 9999:未応答]																																								
Last Ping3	アドレス3の最後の応答[1:正常 2:異常]																																								
NoEchoCount3	アドレス3の未応答回数																																								
NoEchoTime3	アドレス3の応答時間 (ms)																																								
	[0:未設定 1:応答時間 9999:未応答]																																								
Last Ping4	アドレス4の最後の応答[1:正常 2:異常]																																								
NoEchoCount4	アドレス4の未応答回数																																								
NoEchoTime4	アドレス4の応答時間 (ms)																																								
	[0:未設定 1:応答時間 9999:未応答]																																								
VER	バージョンの表示																																								
POS	<p>全アウトレットの電源状態取得</p> <p>応答：mmmm</p> <p>左側からアウトレット1~4</p> <p>m=0:OFF 1:ON</p>																																								
XPOS	<p>全アウトレットの電源状態詳細の取得</p> <p>応答：ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX</p>																																								

	左側からアウトレット1～4 A=0：OFF 1：ON B=0：OFF 遅延中 1：ON 遅延中 XXXX=B のタイマ残り時間
PASS	パスワードの変更 新しいパスワードを2回入力します。 ※入力を失敗すると変更されません。
TELNET	変数「ipAdTelnetT」のアドレス、変数「remoteTelnetPortT」のポートに TELNET クライアントとして接続します。 DiscChar に設定した文字を入力すると切断終了する。 一度に受信するデータは、概ね40Kバイト以下でご利用ください。
DATE	年月日設定 例) DATE yy/mm/dd yy：年 mm：月 dd：日
TIME	現在時刻設定 (秒は省略可) 例) TIME hh:mm:ss hh：時 mm：分 ss：秒
PING	ICMPを4回送信します。 例) PING [IP アドレス]
IPCONFIG	LANの通信設定を表示します。(例) IpAddress 192.168.10.1 SubnetMask 255.255.255.0 DefaultGateway 192.168.10.254 EthernetSpeed 100.0Mbps
CPURESET	CPU をリセットします。 コマンドを実行しても電源状態は変化しません。
PROMPT=n	0 (プロンプト表示無し) 1 (「>」のプロンプト表示) 2 (「 機器名 > 」のプロンプト表示) *変数「promptMode」により接続直後のモードが決まります。
EXIT	回線切断 最初の文字が E, e, Q, q の場合は EXIT と認識します。

※「XPOS」「VER」「PASS」などいくつかのコマンドはログイン時のみ有効です。

■ 応答コマンド

- 正常受付 : Command OK
- 不正なコマンド : Unrecognized command
- 前コマンドの処理中のためコマンド実行せず : Last command is pending. Command failed.

2. シリアルからの制御

シリアルポートからコマンド入力での電源制御ができます。

1) 本体前面の COM ポートと設定用 PC の COM ポートをパソコン用クロスケーブル (D s u b 9 ピンメス) 専用ケーブルで接続します。

2) ターミナルソフトを起動し、ポート設定をします。

通信速度	:	38400bps
データビット	:	8ビット
ストップビット	:	1ビット
パリティ	:	なし

3) 任意のキーを入力します。パスワードが要求されます。

4) パスワード (デフォルト : magic) を入力し、<Enter> キーで実行します。「OK」の応答があります。

5) 制御コマンドを入力し<Enter> キーで実行します。コマンドは「1.TELNET 接続による制御」と共通です。

※詳しくは「■ 制御コマンド一覧表」参照

※PASS コマンドは利用できません。

※EXIT コマンドには応答のみ返します。

3. モデムからの制御

モデム経由で電源制御ができます。

- 1) 本装置 COM ポートを接続するモデムに合わせて設定します。
- 2) 本体前面の COM ポートとモデムをストレートケーブルで接続します。
- 3) 遠隔地のモデムから接続します。
- 4) 接続されるとパスワードが要求されます。
- 5) パスワード（デフォルト：magic）を入力します。コマンド入力状態になります。
- 6) 制御コマンドを入力し、<Enter>キーで実行します。コマンドは「2.telnet 接続による制御」と共通です。
※詳しくは「■ 制御コマンド一覧表」参照
※PASS コマンドは利用できません。

注意 モデム制御ではストレートケーブルモデムが必要です。（付属品はクロスケーブルです。）

4. メールからの制御

メールを利用して電源制御ができます。

メールからのコマンドを利用するには、通信設定ならびにメール設定を正しく行う必要があります。メールからのコマンドには、ログイン方式とパスワード方式があります。また、メール制御許可アドレスが通知先アドレスのみの場合は、通知先として登録したメールアドレスからの制御のみが有効となります。

ログイン方式

1. 本装置にメールを送信します。
 - (ア) 件名 (タイトル) は特に必要ありません。
 - (イ) 本文 1 行目に「login」と入力します。
2. 数分後、本装置からメールが届きます。
 - (ア) ログインのための数値が知らされます。
3. 再び、本装置にメールを送信します。
 - (ア) 件名 (タイトル) は特に必要ありません。
 - (イ) 本文 1 行目に、ログインのための数値を記入します。
 - (ウ) 本文 2 行目以降にコマンドを記入します。
 - ① コマンドを記入し改行を入れます。
 - ② コマンドの「LIST」と「&SAVE」は使えません。
 - ③ 「QUIT」コマンドでログアウトします。「Q」または「E」の 1 文字だけでもログアウトします。
 - ④ 自動ログアウト時間を経過するとログアウトします。
4. 数分後、本装置から結果を知らせるメールが届きます。
5. ログイン中でも他のメールからのログインを受付ます。

パスワード方式

1. 本装置にメールを送信します。
 - (ア) 件名 (タイトル) は特に必要ありません。
 - (イ) 本文 1 行目にパスワードを入力します。
 - (ウ) メールパスワードは Web ブラウザの「メール設定」(42 ページ) の「メール制御パスワード」で設定してください。
本文 2 行目以降にコマンドを入力します。
 - ① コマンドを記入し改行を入れます。
 - ② コマンドの「LIST」と「&SAVE」は使えません。
 - ③ 「QUIT」コマンドでログアウトします。「Q」または「E」の 1 文字だけでもログアウトします。
2. 数分後、本装置から結果を知らせるメールが届きます。

5. WEBコマンドからの制御

WEB からダイレクトコマンドで電源制御ができます。

WEB コマンドでの制御方法

WEB コマンドは主に電源制御のためのコマンドであり、設定の変更は出来ません。
cmd.htm の後に下記のフォーマットで記入します。

?userid=[ユーザーID] &password=[パスワード] &command= [利用コマンド]

例) ユーザーID admin / パスワード magic / コマンド por3

http://192.168.10.1/cmd.htm?userid=admin&password=magic&command=por3

変数名を省略も可能です。

?userid >?i &password >?p&command >?c

http://192.168.10.1/cmd.htm?i=admin&p=magic&c=por3

利用可能コマンド

利用可能ユーザーLv[ident control admin]

VER

POS

XPOS

OLS

OLSn

TEMP

TOS

TOSn

TSP

利用可能ユーザーLv[control admin]

PONn

POFn

PORn

MPON

MPOF

MPOR

PSRn

第7章 ログイン機能

1. ロギング機能の設定・表示

デバイスの監視やその他のイベントログを 1000 件記録します。1000 件を超えた場合は古いログから消去し、新しいログを記録します。記録されたログは、コマンドで表示・確認できます。

1) TELNET による設定と表示

記録モード・表示モードの設定及び記録されたログの表示は、それぞれのコマンドを入力し、Enter>キーで実行します。ログインして制御する方法で操作します。

① 記録モードの変数名とコマンド

変数名 : logMode
コマンド : .logMode

② 表示モードの変数名とコマンド

変数名 : logDisp
コマンド : .logDisp

③ 接続中の表示のみを変更するコマンド

(通信が終了すると「logDisp」の値に戻ります。)

コマンド : LOGDISP

■ ログ制御変数のビット構成

値は最下位を 0 ビットとし、31 ビットの構成になっています。

0:無、1:有

ビット	ビット
30 : 未使用	14 : モデム接続・切断
29 : 未使用	13 : TELNET ログイン・ログアウト
28 : 未使用	12 : TELNET 接続・切断
27 : 未使用	11 : Web ログイン・ログアウト
26 : 未使用	10 : Web 接続
25 : スクリプト実行/失敗	9 : メールログイン・ログアウト
24 : 未使用	8 : メール不正アクセス
23 : 未使用	7 : ユーティリティログイン・ログアウト
22 : 未使用	6 : ユーティリティ接続・切断
21 : NTPアクセス	5 : 電源障害等
20 : シリアルログイン・ログアウト	4 : 電源制御コマンド
19 : 未使用	3 : 未使用
18 : 温度状態変化	2 : ping 監視によるイベント
17 : 変数設定、write	1 : ping 無応答
16 : PPPoE 関連	0 : ping 送信
15 : モデムログイン・ログアウト	

TELNET 通信による設定例

- ・ ping 監視によるイベント、電源制御コマンド、電源障害のログを記録する場合
.logMode=0000000000000000110100
- ・ 全て表示する場合
.logDisp=11111111111111111111 (デフォルト)
- ・ 接続中に「変数設定」だけ表示とする場合
変数を変更せずに LOGDISP コマンドで表示を変更できます。
LOGDISP=00011000000000000000

■ ログ表示コマンド

コマンド	内 容
LOG	ログの表示 (連番号順)
LOG n	ログの表示 (最新 n 個)
LOGTIME	e = t ログ開始からの経過秒 = 現在時刻 e0 = t0 NTP 接続までの経過秒 = 最初の取得時刻 NTP 無効の場合は e のみ表示
LOGCLEAR	ログのクリア
LOGCLEAR T	ログのクリア及び記録時間のリセット

ログの表示数は 20 項目です。
<Enter>キーで続きの 20 項目を表示します。

■ ログの表示形式

```
nnn ttt a b xxxxxxxx c
```

nnn : 連番号
ttt : NTP 無効時：記録開始からの時間 (秒)
yy.mm.dd hh:mm:ss : NTP 有効時：年月日時分秒
a : アウトレット番号
b : PING 送信先番号 (1~4 番)
xxxxxxxx : イベント
c : IP アドレス

■ 記録ログ一覧表

監視設定に基づくイベント（記録・表示のモード設定があります。）	
Ping	ping 送信
No Echo	ping 無応答
監視設定（Action）に基づくイベント	
No Action	処理なし
Outlet Reboot	電源リブート
Outlet On	電源 ON
Outlet Off	電源 OFF
スケジュールの場合は、「by Schedule」、と表示されます。	
電源制御によるイベント	
MPON	全アウトレットの電源出力開始
MPOF	全アウトレットの電源出力停止
MPOR	全アウトレットのリブート（電源リブート）
PON	指定されたアウトレットの電源出力開始
POF	指定されたアウトレットの電源出力停止
POR	指定されたアウトレットのリブート（電源リブート）
アクセスによるイベント（接続先IDが表示されます。）	
--> Uty	ユーティリティ接続
==> Uty	ユーティリティログイン
<== Uty	ユーティリティログアウト（切断）
<-- Uty	ログインしないで切断
WEB,MAIL,TELNET の接続、ログインなどもこれに準じます	
NTPServerAccessError	NTP サーバ接続エラー。3回続けて失敗した場合。
NTP --- hh:mm:ss	NTP サーバ接続
mode に関係のない表示	
Mail Error	メール送信エラー

第8章 PPPoEの使用

1. PPPoEについて

本装置は PPPoE を搭載しています。通信事業者の PPPoE サーバに対する、PPPoE クライアントとして、ご利用いただけます。

2. 設定について

PPPoE 機能をご利用いただくために、以下の変数をご用意しています。
変数の変更は、コマンドから行います。

また、◎の変数は設定ユーティリティのメニューから設定を行えます。

◎pppMode	1:常時接続モード 0:コマンド接続モード (初期値 0)
◎pppUserId	ユーザーID
◎pppPassword	パスワード
pppMyMru	自局側 MRU (初期値 1454)
pppNoReplyInterval	無応答判定時間 (秒、初期値 2)
pppConnectInterval	常時接続リトライ間隔 (秒、初期値 30)
pppReconnectInterval	自動再接続間隔 (秒、初期値 5:フレッツ仕様では 5 以上)
pppLcpEchoInterval	LCP のエコー送信間隔 (秒、初期値 30)
pppLcpEchoCount	LCP リンク解放までの無応答回数 (初期値 10)
ppplcmpEchoInterval	ICMP のエコー送信間隔 (秒、初期値 0)
ppplcmpEchoCount	IP リンク解放までの無応答回数 (初期値 5)
pppLogMode	1:接続・解放等のログを記録 0:記録しない (初期値 1)

3. 制御について

PPPoE 機能をご利用いただくために、以下のコマンドをご用意しています。

PPPCONN	接続動作を開始 pppUserId と pppPassword が設定されていて、かつ初期状態なら動作を開始し Command OK と表示する。そうでなければ Command failed と表示する。
PPPDISC	切断動作を開始 常に Command OK と表示する。初期状態なら何もしない。
PPPSTAT	状態表示 常時接続モードでも、コマンドを使用できる。

4. 動作について

PPPoE 機能ご利用時の動作を説明します。

常時接続モード (pppMode=1)

- ・立ち上げ時に pppUserId と pppPassword が設定されていれば、自動的に接続動作を開始します。接続が不成功なら pppConnectInterval の間隔でリトライを続けます。
- ・接続後、通信中に切断された場合は、pppReconnectInterval 後に接続をリトライします。
- ・PPPDISC コマンドで切断した場合は、PPPCONN コマンドを実行しない限り接続動作は開始しません。この PPPCONN コマンドによる接続が不成功でも、リトライはしません。

リセット時の動作

- ・接続時に CPU リセット (ウォームスタート) を行うと、自動的に切断します。常時接続モードであれば、その後あらためて接続動作を開始します。

DNS サーバアドレス取得

- ・IPCP 接続手順で取得したアドレスを変数 ipAdDnsServer に自動的に設定します。

LED の表示

- | | |
|--------------------|-------------------|
| ・ケーブル抜け状態 | 0.25 秒点灯、0.25 秒消灯 |
| ・PPPoE 接続、通常状態 | 2 秒点灯、0.5 秒消灯 |
| ・PPPoE 接続、障害または復旧中 | 0.5 秒点灯、0.5 秒消灯 |
| ・その他の状態 | 1 秒点灯、1 秒消灯 |

状態表示

- ・PPPSTAT コマンドでは、フェーズ (p) とサブフェーズ (s) を、p-s として表示します。
例: タイムアウトとリトライを繰り返した後、初期フェーズに戻るが、状態表示は次のようになる。
PPPSTAT 0,1-1 これは 1-1 の状態で接続が不成功となり、初期フェーズになったことを示します。
- ・1-3 と 3-3 は、状態としては存在しません。PPPSTAT 0, のあとに続く表示としてだけ用いられます。例えば、PPPSTAT 0,3-3 となったら、認証失敗を示します。
- ・接続フェーズでは、等号に続けて IP アドレスも表示します。

各状態の説明

フェーズとサブフェーズの組み合わせで状態が決まります。

フェーズ

- 0: 初期フェーズ
- 1: Discovery フェーズ
- 2: LCP フェーズ
- 3: CHAP フェーズ
- 4: IPCP フェーズ
- 5: 接続フェーズ
- 6: 切断フェーズ

サブフェーズ

各フェーズごとに定義されます。(初期フェーズと切断フェーズには存在しません)

Discovery フェーズ

- 0: 初期
- 1: PADI 送信、PADO 待ち
- 2: PADR 送信、PADS 待ち
- 3: PADS エラー
- 4: リンク確立

LCP フェーズ、IPCP フェーズ

- 0: 初期
- 4: Closing
- 6: Req-Sent Config-Req 送信、Config-Ack 待ち、Config-Req 待ち
- 7: Ack-Rcvd Config-Req 送信、Config-Ack 受信、Config-Req 待ち
- 8: Ack-Sent Config-Req 送信、Config-Req 受信、Config-Ack 送信、Config-Ack 待ち
- 9: リンク確立

CHAP フェーズ

- 0: 初期
- 1: Challenge 待ち
- 2: Result 待ち
- 3: エラーResult
- 4: OK

接続フェーズ

- 0: 通常
- 1: 障害
- 2: 復旧中

無応答判定

無応答判定時間[変数 pppNoReplyInterval]は、以下の場合に適用します。

- ・ PADI に対する PADO 待ち
- ・ PADR に対する PADS 待ち
- ・ LCP,ICPC で Config-Req に対する Config-Ack,Config-Nak 待ち
- ・ LCP,ICPC で Config-Req 待ち
- ・ LCP,ICPC で Term-Req に対する Term-Ack 待ち
- ・ LCP で Echo-Req に対する Echo-Reply 待ち
- ・ CHAP チャレンジ待ち
- ・ CHAP リザルト待ち

接続中は、pppLcpEchoInterval の間隔で LCP エコー要求を送って、ノットレディでないか監視しています。pppNoReplyInterval 以内に応答が無いとその時点で再び送信します。無応答が pppLcpEchoCount の回数に達するとノットレディと見なします。

ノットレディと見なすと、接続手順を開始できるか（レディになったか）をチェックします。接続手順を開始できるようになったとき（具体的には PADI に PADO が返ってきたとき）、あらためて LCP エコー要求を送る。応答があれば、接続状態に戻ったと見なします。応答が無ければ、接続手順を開始し、再接続します。（ただし常時接続モードでなければ、再接続はしません）

接続中に、ppplcmpEchoInterval の間隔で ICMP エコー要求を送って、IP リンクが解放されていないか監視できます。無応答が ppplcmpEchoCount の回数に達すると、IP リンク解放と見なし、常時接続モードなら再接続を行います。初期値は ppplcmpEchoInterval が 0 ですので、ICMP エコー要求は送りません。

LCP エコーと ICMP エコーを除いては、リトライ回数は 3 になっています。

ログ記録

変数 logMode の 16 ビットが有効な場合は、以下のものがログに記録されます。

PPPoE Connect	接続した。IP アドレスも表示
PPPoE Disconnect	切断した
PPPoE Disconnected	切断された
PPPoE Modem Down	ノットレディになった
PPPoE Modem Up	レディになった
PPPoE Continue	接続状態に戻った
PPPoE IP Link Release	IP リンクが解放された

第9章

シャットダウン

1. シャットダウンについて

この機能により、接続された機器を正常にシャットダウンしてから電源出力を停止できます。シャットダウン機能を利用して、コンピュータの管理や遠隔地からのリモート通信などが容易にできるようになります。

2. パソコンの接続

シャットダウン機能により、接続された機器の OS を正常に終了させてから本機の電源出力を停止できます。この機能を利用して、コンピュータの管理や遠隔地からのリモート通信などが容易にできるようになります。以下は、シャットダウン信号を使用する場合について、ご説明いたします。シャットダウンスクリプトを利用する場合には、「4.シャットダウンスクリプト」をご覧ください。

- 1) 別売のシャットダウンケーブル (XH-9609) で、本機とパソコンを接続します。
パソコンの電源ケーブルも本機に接続します。

注意 別売のシャットダウンケーブル (XH-9609) は当社シャットダウン専用ケーブルです。
他の機種や機器に使用しないでください。誤った使い方をしますと「接続した機器の故障」、「接続した機器の発火」などの原因となることがあります。
接続されたパソコンのデータは定期的にバックアップを取ってください。

3. パソコンの設定

パソコンのシャットダウン設定をします。
本機の信号極性とパソコンの信号極性を合わせます。

イベント発生時に信号は「負」から「正」へ変化します。
電源障害信号：CS 容量低下信号：CD

Windows NT/2000/XP : 標準 UPS サービス
LINUX : 電源障害信号に対応したソフトをご選択ください。

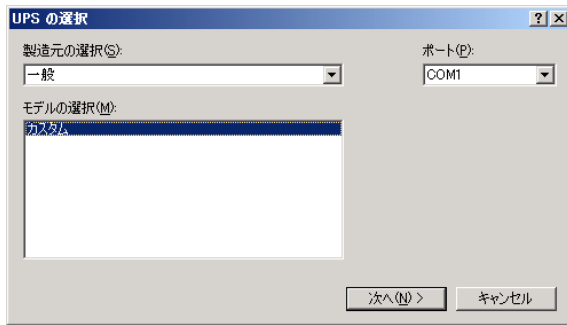
1) Windows 2000/XP

- ① 設定するパソコンの「コントロールパネル」を開きます。
- ② 「電源オプション」のアイコンをダブルクリックします。
- ③ 「UPS」のタブをクリックします。



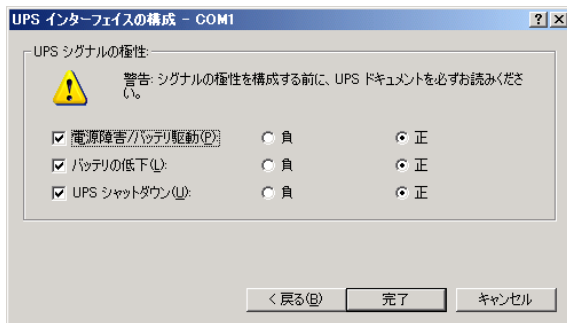
- ④ 詳細欄の「選択 (S)」のボタンをクリックします。
- ⑤ 「製造元の選択 (S)」項目のリストから「一般」を選択します。
- ⑥ 「モデルの選択 (M)」で「カスタム」をクリックして選択します。

《モデルの選択画面》



- ⑦ 「ポート (P)」項目のリストから COM ポート番号を選択します。
- ⑧ 「次へ (N) >」のボタンをクリックします。

《UPS インターフェイス画面》



- ⑨ 「電源障害/バッテリー駆動」にチェックを入れます。
- ⑩ 各極性を本機と同じ極性に設定します。
- ⑪ 正負の選択ができましたら、「完了」ボタンをクリックします。

※ UPS 連携の場合は「バッテリーの低下」も同じように設定します。

2) Windows NTの場合

- ① 設定するパソコンの「コントロールパネル」を開きます。
- ② 「無停電電源」のアイコンをダブルクリックします。
- ③ 「無停電電源装置がインストールされているポート」にチェックを入れ、COMポート番号を選択します。
- ④ 「電源障害信号」にチェックを入れます。

《UPS 設定画面》



- ⑤ 各極性を本機と同じ極性に設定します。
- ⑥ 正負の選択ができましたら、「OK」ボタンをクリックします。

※UPS 連携の場合は「バッテリ容量低下信号」も同じように設定します。

4. シャットダウンスクリプト

本装置はシャットダウンスクリプトを搭載しています。この機能により、接続された機器を正常に電源出力停止できます。

1-1 スクリプトの基本動作

- ① アウトレットが OFF 命令を受け、シャットダウン遅延中に動作します。OFF 命令はコマンド、温度監視、スケジュール、死活監視、UPS 連動より出されます。
- ② 指定の IP アドレス、ポートに TELNET 接続を行います。
- ③ 接続後、設定したスクリプトを実行します。
- ④ スクリプト実行後、以下の条件で電源を OFF します。
 - ・ PING 応答確認有りの場合：シャットダウン遅延時間中、数秒間隔で PING 監視を行い応答がなくなるか、またはシャットダウン遅延時間がタイムアップした時
 - ・ PING 応答確認無しの場合：シャットダウン遅延時間がタイムアップした時
(スクリプトの終了コードにより電源 OFF 条件を定めることができます。)

1-2 設定

(2-1-2-1-1 シャットダウンスクリプト設定をご参照ください。ブラウザから設定できます。)
本機を TELNET 接続、シリアルポートからターミナルソフトにて下記の項目を設定してください。(アウトレット毎に以下の設定をします。)

IP アドレス	:	debOIShutdownAddr
Port 番号	:	debOIShutdownPort 0 を指定すると、23 と見なします。
スクリプト番号	:	debOIShutdownScript
スクリプトの有効/無効	:	debOIShutdownEnabled
サーバ名 (ID)	:	debOIShutdownName
パスワード	:	debOIShutdownPassword
PING 実行先	:	debOIShutdownPingAddr PING でシャットダウン終了を確認します、 IP アドレスまたはドメイン名を設定します。
PING 間隔	:	debOIShutdownPingInterval
PING 回数	:	debOIShutdownPingCount
PING 限度	:	debOIShutdownPingMax
電源 OFF 条件	:	debOIShutdownOffMax

1-3 ログ

- ① スクリプトの成功または失敗をログと変数に残します。
変数は debOIShutdownExit と debOIShutdownMsg
この変数の値は保存されます。

1-4 エラー処理

- ① 接続できない時
シャットダウン遅延時間中、数秒間隔でリトライします。
接続できなければ、終了コード 254 で終了します。
- ② 切断された時
接続後に切断されたときは、終了コード 253 で終了します。

1-5 テキスト仕様

- ① 条件
 - ・ テキストサイズは、2Kbyte までです。
 - ・ テキスト行数は 250 行までです。
 - ・ テキストの第 1 行は、TELNET とします。
 - ・ 行の先頭やパラメータの区切りに任意個のタブや空白を入れてもかまいません。
 - ・ スクリプト関数は大文字でも小文字でも可能です。
 - ・ 2 バイト文字にも対応しています。
- ② スクリプト関数詳細
文字列 : 二重引用符” で囲みます。
CR コードは¥r、LF コードは¥n で表します。
また、1 個の¥は¥¥で、1 個の” は¥” で表します。
制御コード等は¥xnn で nn は 2 桁の 16 進数で表します。
(長さは最大 63 バイト)

timeout 時間	:	単位秒。スクリプトタイムアウト 最大 1023 (秒) (スクリプト例は 600 秒) 時間が来たら強制的にスクリプトを終了します。 (終了コードは 255)
delay 時間	:	単位 100 ミリ秒、一時停止、最大 1023
goto ラベル	:	指定ラベルに飛びます。
ラベル	:	ラベルは 1~99 行の残りにはコメントしか書くことはできません。
exit 終了コード	:	スクリプト終了 終了コードは 0~255。省略は 0 変数 debOIShutdownExit に設定されます。
send 文字列	:	文字列を送信する。
recv	:	データを受信バッファに受信する。
recv 時間 goto ラベル	:	データを受信バッファに受信します。(時間の単位は秒) 時間内に受信できなければラベルに飛びます。
recv 時間 exit 終了コード	:	
if 文字列 goto ラベル	:	受信バッファに文字列があればラベルに飛びます。
if 文字列 exit 終了コード	:	受信バッファに文字列があれば終了します。
unless 文字列 goto ラベル	:	受信バッファに文字列が無ければラベルに飛びます。
unless 文字列 exit 終了コード	:	
/	:	コメント 各文の終わりにも/を置いてコメントを書くことができます。
set 文字列	:	メッセージ変数 debOIShutdownMsg に文字列を入れます。
sendname	:	サーバ名 (ID) を CR コードつきで送信します。
sendpassword	:	パスワードを CR コードつきで送信します。

③ スクリプト例 (Windows 用)

```

TELNET
//強制タイムアウト時間 600 秒
timeout 600
//ユーザーログイン、パスワード確認
1:
recv 10 exit 99
unless "login:" goto 1
sendname
2:
recv 10 exit 99
unless "password:" goto 2
sendpassword
3:
recv
unless ">" goto 3
//シャットダウンコマンド送信
send "shutdown /s¥r"
4:
recv
unless ">" goto 4
send "exit¥r"
exit

```

注意	シャットダウンされる側のパソコンは、TELNET サーバ機能が有効になっている必要があります。また、ログインは管理者権限で行う必要があります。
-----------	---

④ スクリプト入力

SCRIPT コマンドで始めます。

SCRIPT 番号

番号は 1~4

ENDSCRIPT コマンドで終わります。

変数 script1~script4 に格納します。コメントや余分のタブ・空白は格納しません。

エラーがある場合は、エラーを表示し、格納しません。

1-6 PING 確認について

スクリプト実行が終了したなら、終了コードが何であってもPING 確認を実行します。

PING 確認では、PING 実行先が指定されていれば、指定間隔でPING を送信します。

PING 回数だけ連続して未応答なら、PING 確認を終了します。

PING 限度だけ送信したなら、PING 確認を終了します。

PING 実行先が指定されていなければ、すぐにPING 確認を終了します。

PING 確認を終了したなら、debOIShutdownTime の遅延後にアウトレットの電源をオフします。

第10章

無停電電源装置 (UPS)との連携

1. 本機と無停電電源装置（UPS）の接続

本機とUPSを以下の手順で接続します。

※UPSご利用の際は、シリアル・モデム通信は使用できません。

- 1) UPSと本機とを専用通信ケーブルで接続します。
専用通信ケーブルは弊社もしくは各UPSメーカーにご相談ください。
- 2) 本体前面 DIP スイッチ.1 を ON（下）にします。
- 3) 本機の電源コードをUPSのACアウトレットに接続します。
- 4) UPSの電源出力を開始します。

2. 機器設定

本機を TELNET 接続、シリアルポートからターミナルソフトにて下記の項目を設定してください。「その他の制御」を参照してください。

- ① UPS 名称
変数 : upsIdentName
全角 10 文字、半角英数字 20 文字以内
- ② UPS モニタ時間間隔 (秒)
変数 : upsMonitorInterval
デフォルト : 10
(0~60、0は1と見なす。)
- ③ UPS シャットダウン開始
待機時間 (秒)
変数 : debMasterUpsAlarmWaitTime
デフォルト : 120
(-1~300、-1の場合は
シャットダウン無効)

設定された時間が経過すると、本機は停電状態と認識し、シャットダウン処理を開始します。設定された時間内に電源障害を検知した場合には、通常状態に戻ります。

シャットダウン時間 : 電源 OFF 遅延時間

- ④ UPS シャットダウン有効化
 変数 : debMasterEnableUpsShut
 デフォルト : 2
 (1:有効 2:無効)
- ⑤ PC のER 信号との連携の有効化
 変数 : debOIShutdownSignal
 デフォルト : 2,2,2,2
 (1:有効 2:無効)
- ⑥ 給電状態
 変数 : upsOutputSource
 デフォルト : 1
 0,1 : 未設定 3 : 正常 5 : バックアップ
- ⑦ バッテリ状態
 変数 : upsBatteryStatus
 デフォルト : 1
 0,1 : 未設定 2 : 正常 3 : 低電圧
- ⑧ UPS 論理
 変数 : upsSignalLevel
 デフォルト : 15

制御フラグ (4bit)			
④	③	②	①

0 : 負 1 : 正

- ① 停電検知レベル デフォルト : 正
 ② ローバッテリー検知レベル デフォルト : 正
 ③ 未使用 (1 : 固定)
 ④ シャットダウン信号レベル デフォルト : 正

以下は設定例です。

- 例 1) ① 停電検知レベル 「正」 : 設定値 : 15
 ② ローバッテリー検知レベル 「正」 デフォルト
 ③ 未使用 (1 : 固定)
 ④ シャットダウン信号レベル 「正」

- 例 2) ① 停電検知レベル 「正」 : 設定値 : 13
 ② ローバッテリー検知レベル 「負」
 ③ 未使用 (1 : 固定)
 ④ シャットダウン信号レベル 「正」

第 1 1 章 SNMP について

1. SNMPについて

本装置はSNMPエージェント機能を装備しています。SNMPマネージャーを利用して、ネットワークシステムの電源管理、電源制御を統合的に行うことができます。

2. 機器設定

本装置を TELNET 接続にて下記の項目を設定してください。「その他の制御」を参照してください。

- ① SNMPのSET、GET有効化
変数 : snmpGetSetEnabled
デフォルト : 0
(0:無効 1:有効)

- ② SNMP TRAPの有効化
変数 : snmpTrapEnabled
デフォルト : 0
(0:無効 1:有効)

- ③ SNMP不正アクセス時のTRAP通知
変数 : snmpAuthenTrapEnabled
デフォルト : 2
(1:有効 2:無効)

- ④ TRAP送信回数
変数 : snmpTrapSendN
デフォルト : 1
(1~9)

- ⑤ TRAP送信間隔(秒)
変数 : snmpTrapSendInterval
デフォルト : 1
(1~9)

- ⑥ TRAP送信先アドレス
変数 : snmpTrapAddr
デフォルト : 0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0
(8箇所)

- ⑦ SNMP用フィルターの有効化
 変数 : snmpFilterEnabled
 デフォルト : 0
 (0:無効 1:有効)
- ⑧ フィルター有効時許可するアドレス
 変数 : snmpFilterAddr
 デフォルト : 0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,
 0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,
 0.0.0.0,0.0.0.0
 (10箇所)
- ⑨ フィルター有効時のMask
 変数 : snmpFilterEnabled
 デフォルト : 255.255.255.255,255.255.255.255,
 255.255.255.255,255.255.255.255,
 255.255.255.255,255.255.255.255,
 255.255.255.255,255.255.255.255,
 255.255.255.255,255.255.255.255
 (10箇所)
- ⑩ SNMP GET コミュニティ名
 変数 : getCommunity
 デフォルト : Public
- ⑪ SNMP SET コミュニティ名
 変数 : setCommunity
 デフォルト : Public
- ⑫ SNMP TRAP コミュニティ名
 変数 : trapCommunity
 デフォルト : Public

3. MIBについて

本機を管理するためのプライベートMIBを準備しています。
当社ホームページ(<http://www.meikyo.co.jp>)よりMEIKYO.MIBをダウンロードし、ご利用ください。

プライベートMIBファイルをNMSにロード・コンパイルすることにより、本機の管理をNMS上で行うことができます。

注意	MIBのロード・コンパイル使用方法についての詳細は、ご利用されるNMSのマニュアルを参照してください。
-----------	---

第12章
ネットワーク
稼動監視

1. 機器設定

本装置から UDP のパケットを送出し、電源状態を通知することができます。「RPC-EYE v3」(オプション 有償ソフトウェア)を利用すれば、各機器からのパケットを受信し一元管理することができます。

下記の変数を設定してください。(①～④は WEB 通信詳細画面により設定できます)

① 状態通知機能

変数 : msrpEnabled
デフォルト : 0
(0:無効 1:有効)

RPC-EYE v3 を使用するパソコンのアドレスを設定します。

② 送信先アドレス

変数 : ipAdCenter
デフォルト : 0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0
(3箇所)

RPC-EYE v3 を使用するパソコンのポート番号を設定します。

③ ポート番号

変数 : centerPort
デフォルト : 5000

情報を通知する間隔を設定します。

④ 定期通知の送信間隔 (秒)

変数 : centerSendTimer
デフォルト : 300

電源変化時は、定期通知間隔を待たず直ちに通知します。その時の通知回数を設定します。

⑤ 電源変化時の通知回数

変数 : centerChangeSendCount
デフォルト : 3

電源変化時の通知の2回目以降の通知間隔を設定します。

⑥ 電源変化時の通知間隔 (秒)

変数 : centerChangeSendTimer
デフォルト : 10

2. RPC-EYE v3の利用

RPC-EYE v3 は、RPC シリーズからの送信情報を利用して、各拠点のネットワークの稼動状態をリアルタイムで監視するネットワーク稼動監視ソフトです。

以下の特長があります。

- ・ 死活監視 温度状態 電源状態の表示と監視
- ・ アイコンによるビジュアルな状態表示
- ・ リアルタイムに見れる詳細な情報ビューア
- ・ 温度状態のグラフによる表示
- ・ 受信情報のデータ保存(CSV 形式)
- ・ 状態変化時に E-MAIL 又は音による通知機能
- ・ 個別の機器への接続機能(HTML or TELNET)
- ・ 管理する機器は理論上 1000 台まで可能です。
- ・ 1 本のソフトで PC 3 台まで利用できます。

詳細、購入方法等は下記のアドレスで確認ください。

<http://www.meikyo.co.jp/products/reye.html>

設定前の確認

- 設定用 PC と本装置を LAN で確実に接続してください。
- RPC -EYE v3 を PC にインストールしてください。
RPC -EYE v3 は Windows2000/XP/Vista 対応ソフトです。
RPC -EYE v3 の設定、利用方法は、RPC -EYE v3 説明書(PDF ファイル)をご覧ください。

第13章 仕様一覧

■ 変数一覧表

変数名	初期値	内 容	備 考
ipAdEntAddr	192.168.10.1	IP アドレス	
ifPhysAddress	(機器毎)	MAC アドレス(ReadOnly)	
serialNo		未使用	
keyCode		キーコード:自動生成	
keyCheck	0	キーチェック	0:無効 1:有効
sysName	Noname	機器名称	全角9文字 半角英数字19文字以内
snmpGetSetEnabled	0	SNMP の SET、GET の有効化	0:無効 1:有効
snmpTrapEnabled	0	SNMP TRAP の有効化	0:無効 1:有効
snmpAuthenTrapEnabled	2	SNMP 不正アクセス時の TRAP 通知	1:有効 2:無効
snmpTrapSendN	1	TRAP 送信回数	1~9
snmpTrapSendInterval	1	TRAP 送信間隔(秒)	1~9
snmpTrapAddr		TRAP 送信先アドレス	“,” 区切りで8箇所以内
snmpFilterEnabled	0	SNMP 用フィルタの有効化	0:無効 1:有効
snmpFilterAddr		フィルタ有効時許可するアドレス	“,” 区切りで10箇所以内
snmpFilterMask	255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255	フィルタ有効時の Mask	10 箇所
getCommunity	public	SNMP GET コミュニティ名	
setCommunity	public	SNMP SET コミュニティ名	
trapCommunity	public	SNMP TRAP コミュニティ名	
sysDescr	*1 文字列		
sysContact	inforpc@meikyo.co.jp	連絡先	
sysLocation	Nowhere	設置場所	全角31文字 半角英数字63文字以内
ifDescr	*2 文字列	(ReadOnly)	
ipAdEntNetMask	255.255.255.0	ネットマスク	
ipRouteDest	192.168.1.1	デフォルトゲートウェイ	
netBootpRetry	0	BOOTP リトライ回数	
netRarpRetry	0	RARP リトライ回数	
telnetEnabled	1	TELNET の有効化	0:無効 1:有効
telnetPort	23	TELNET のポート番号	
utilityPort	9000	UTY のポート番号	
loadPort	9100	ファームウェアローダーの ポート番号	
fileLoadPort	9200	HTTP ファイルをロードするポート	
httpEnabled	1	HTTP の有効化	0:無効 1:有効

httpPort	80	HTTP のポート番号	
httpRefreshInterval	30	HTTP 自動更新間隔	
httpRefreshEnabled	0	HTTP 自動更新の有効化	0:無効 1:有効
httpCommandEnabled	0	HTTP コマンドの有効化	0:無効 1:有効
dhcpEnabled	0	DHCP の有効化	0:無効 1:有効
ipFilterEnabled	0	IP フィルタの有効化	0:無効 1:有効
ipFilterAddr		IP フィルタアドレス	"/" 区切りで 10 箇所以内
ipFilterMask	255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255	IP フィルタマスク	10 箇所
model	RPC-M4H	モデル名 (ReadOnly)	
com1Speed	3	シリアル通信速度	1:9600Bps 2:19200Bps 3:38400Bps
com1DataBits	8	シリアル通信ビット	7,8
com1StopBits	1	シリアル通信ストップビット	1,2
com1Parity	0	シリアル通信パリティ	0:無 1:奇 2:偶
version		バージョン表示 (ReadOnly)	
debTcpInactiveTimer	10	TELNET 通信時の無通信タイマ(分)	
autoLogin	0	オートログインの有効化	0:無効 1:有効
userLoginTimeout	600	HTTP 自動ログアウト時間	
debMasterRebootTime	10	全アウトレットリブート時の OFF 時間(秒)	8~3600 の整数
debOIPowerOnTime	1,2,3,4	各アウトレットの ON 時間	左→右 1→4 アウトレット -1~3600 の整数
debOIShutdownTime	0,0,0,0	各アウトレットの OFF 時間	左→右 1→4 アウトレット -1~3600 の整数
debOIRebootTime	10,10,10,10	各アウトレットの REBOOT 時間	左→右 1→4 アウトレット 8~3600 の整数
debOIWdogAddr		監視先 IP アドレス	左→右 1→4 アウトレット "/" 区切りで 8 箇所以内
debOIWdogSendMax	10,10,10,10	PING 監視 送信回数	左→右 1→4 アウトレット 1~100 の整数
debOIWdogNoResMax	10,10,10,10	PING 監視 無応答回数	左→右 1→4 アウトレット 1~100 の整数
debOIWdogActCond	1,1,1,1	PING 監視 監視対象数	1~4(整数)
debOIWdogAction	0,0,0,0	PING 監視 Action	0:noPing 1:noAction 2:Reboot 3:On 4:Off
debOIWdogActCount	0,0,0,0	PING 監視 Action 回数(ReadOnly)	
debOIWdogStatus	0,0,0,0	PING 監視判断(ReadOnly)	0:未設定 1:正常 2:異常 3:回復中
debOIRebootCount	1,1,1,1	PING 監視 再 Reboot 回数	左→右 1→4 アウトレット

debOIRebootInterval	1,1,1,1	PING 監視 再 Reboot 間隔(秒)	左→右 1→4 アウトレット
debOIActionLimit	0,0,0,0,0,0,0	PING 監視 異常時の 1 時間ごとに繰り返すリポート回数	0: 無制限
debOIPopErrorMax	0,0,0,0	PING 監視 POP サーバーへの連続アクセス異常回数	0: 機能無効
debOIWdogLastStatus	0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0	PING 監視 最終応答(ReadOnly)	0: 未設定 1: 正常 2: 異常
debOIWdogDefGateway	0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0	PING 監視 デフォルトゲートウェイ	0: 無効 1: 有効
debOINoResCount	0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0	PING 監視 無応答回数(ReadOnly)	左→右 1→4 アウトレット
debOIRespTime	0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0	PING 監視 IP アドレスからの応答時間	0: 未設定 1: PING 応答の最小値
debOIActionMax	12	PING 監視 リポート回数	
debOINoEchoInterval	5	PING 監視 無応答検出時間(秒)	5~60 の整数
debOIPingInterval	1	PING 監視 送信間隔(分)	1~60 の整数
pingInterval2	0,0,0,0	PING 監視 送信間隔個毎(分)	未設定時は上段値 0 ~60 の整数
debOIPowerOnTimeV	0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0	仮想アウトレット用の ON 時間	左→右 1→4 アウトレット -1~3600 の整数
errorN	0	シャットダウンスクリプト中の検出エラー数	
debOIShutdownAddr		シャットダウンスクリプトの IP アドレス	
debOIShutdownPort	0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0	シャットダウンスクリプトの Port 番号	
debOIShutdownScript	0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0	シャットダウンスクリプトのスクリプト番号	
debOIShutdownEnabled	0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0	シャットダウンスクリプトの有効化	0: 無効 1: 有効
debOIShutdownName		シャットダウンスクリプトのサーバー名(ID)	
debOIShutdownPassword		シャットダウンスクリプトのパスワード	
debOIShutdownMsg		シャットダウンスクリプトの成功、失敗ログ	
debOIShutdownExit	0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0	シャットダウンスクリプトの成功、失敗変数	
debOIShutdownPingAddr		シャットダウンスクリプトの PING 実行先	
debOIShutdownPingInterval	0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0	シャットダウンスクリプトの PING 間隔	
debOIShutdownPingCount	0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0	シャットダウンスクリプトの PING 回数	
debOIShutdownPingMax	0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0	シャットダウンスクリプト PING 限度	
debOIShutdownDebug	0	シャットダウンスクリプトのエラー処理	0: 無効 1: 有効
debOIShutdownOffMax	255	シャットダウンスクリプトの電源 OFF 制限	
script1		スクリプトの変数格納	
script2			
script3			
script4			
tempEnabled	0	温度監視の有効化	0: 無効 1: 有効
tempTestMode	0	温度テストモードの有効化	0: 無効 1: 有効
tempSimMode	0	温度シミュレーションモード	0: 無効 1: 有効
tempLowerA	-5	下限警報閾値	少数点以下は 0.25 の倍数となる。
tempLowerW	0	下限注意閾値	
tempLowerH	2	下限ヒステリシス	
tempLowerOff	1	低温アウトレット解除	0: 無効 1: 有効
tempUpperA	45	上限警報閾値	少数点以下は 0.25 の倍数となる。

tempUpperW	35	上限注意閾値	
tempUpperH	2	上限ヒステリシス	
tempUpperOff	1	高温アウトレット解除	0:無効 1:有効
tempOIControl	0,0,0,0	温度によるアウトレット動作	0:対象外 1:上限警報で動作 2:下限警報で動作
tempStatus	0	温度状態	0:正常 1:上限注意 2:上限警報 3:下限注意 4:下限警報
tempActionStatus	0	温度による動作状態	0:正常(解除済) 1:上限警報実行 2:下限警報実行
tempDegree		温度測定値(°C)	少数点第二位まで表示
debOIName	Outlet1,Outlet2, Outlet3,Outlet4	アウトレット名	全角10文字 半角英数字20文字以内
debOINameV		仮想アウトレットの名称	全角10文字 半角英数字20文字以内
schEnabled	0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0	スケジュールの有効化(全20個)	0:無効 1:有効
schDay	0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0	スケジュール曜日(全20個)	0:毎日 1:日 2:月 3:火 4:水 5:木 6:金 7:土
schHour	0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0	スケジュール時間(全20個)	0~23の整数
schMinute	0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0	スケジュール分(全20個)	0~59の整数
schOutletNo	0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0	スケジュールアウトレット(全20個)	0:全 1:1 2:2 3:3 4:4
schAction	0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0	スケジュールアクション (全20個)	0:NoAction 1:Reboot 2:powerOn 3:powerOff
ipAdDnsServer		DNS サーバアドレス	
mailUserName		メール ユーザー名	
mailPassword		メール パスワード	
mailCommandPassword		メール コマンドパスワード	半角英数字63文字以内
mailLastEvent		最新のイベント内容を保管	
mailContent	sysName, sysLocation, ipAdEntAddr, ifPhysAddress, mailLastEvent	通知メールの内容	
mailAddr		メール アドレス	
extMailAddr		送信先メールアドレス	8個
mailInfoFlag	0,0,0,0,0,0,0,0	PING 監視 メール送信有効化 (8ビット)	0:無効 1:有効
mailTempInfoFlag	0,0,0,0,0,0,0,0	温度監視 メール送信有効化 (8ビット)	0:無効 1:有効
mailPppInfoFlag	0,0,0,0,0,0,0,0	接続確率メールの有効化	0:無効 1:有効
mailCommandEnabled	0	メールコマンドの有効化	0:無効 1:有効
mailCommandAddrEnabled	1		
mailLogoutTime	10	メールログアウト時間(分)	1~60の整数
mailCheckInterval	3	メールチェック間隔(分)	1~60の整数

mailApopEnabled	0	APOP の有効化	0:無効 1:有効
mailSmtplibEnabled	0		0:無効 1:有効
promptMode	2	TELNET プロンプトモード	0:無し 1:「>」の表示 2:「機器名>」の表示
modemEnabled	0	モデムの有効化	0:無効 1:有効
modemTimeout	10	モデムタイムアウト時間(分)	
logMode	0111 1111 1111 1111 0100	ログ記録モード(21ビット)	0:無効 1:有効
logDisp	0111 1111 1111 1111 1111	ログ表示モード(21ビット)	0:無効 1:有効
mailLogCount	0	メールで送信する更新されたログの数	0:無効 1~20:閾値
mailLogDisp	0111 1111 1111 1111 1111	メールで送信するログモード(21ビット)	0:無効 1:有効
ipAdNtpServer		NTP サーバの IP アドレス	
ntpInterval	6	NTP サーバへのアクセス間隔(10分)	
msrpEnabled	0	状態通知の有効化	0:無効 1:有効
ipAdCenter		監視情報送信先 IP アドレス(3箇所)	
centerPort	500050005000	監視情報送信先ポート	
terminalId	0	監視情報用 ID 番号	0~9999
centerSendTimer	300	監視情報送信間隔(秒)	
centerChangeSendTimer	10	状態変化時の送信間隔(×100ミリ秒)	
centerChangeSendCount	3	状態変化時の送信回数	
ipAdTelnetT		TELNET からの TELNET 中継先アドレス	
ipAdTelnetU		UTY からの TELNET 中継アドレス	
remoteTelnetPortT	23	TELNET からの TELNET 中継先ポート	
remoteTelnetPortU	23	UTY からの TELNET 中継ポート	
remoteTelnetMyPort	5000	TELNET 中継時の発信ポートベース番号	
discChar		中継中の通信切断キャラクタ	
pppMode	0	PPPoe 常時接続モード	0:無効 1:有効
pppUserId		PPPoe ユーザーID	
pppPassword		PPPoe パスワード	
pppMyMrU	1454	自局側 MRU	
pppNoReplyInterval	2	無応答判定時間(秒)	
pppConnectInterval	30	常時接続リトライ間隔(秒)	
pppReconnectInterval	5	自動再接続間隔(秒)	
pppLcpEchoInterval	30	LCP のエコー送信間隔(秒)	
pppLcpEchoCount	10	LCP のリンク解放までの無応答回数	
ppplcmpEchoInterval	0	ICMP のエコー送信間隔(秒)	
ppplcmpEchoCount	5	IP リンク解放までの無応答回数	
pppStat	0,0,0	PPPoe の状態(ReadOnly)	
pppAddress		PPPoe IP アドレス	
pppConnTime	0:00:00	接続後の経過時間(秒)	0:無接続
ispName		ISP の名称	全角 31 文字 半角英数字 63 文字以内
upsIdName		UPS 名称	
upsMonitorInterval	10	UPS モニタ時間間隔(秒)	0~60、0 は 1 と見なす。

debMasterUpsAlarmWaitTime	120	UPS シャットダウン開始待機時間(秒)	-1~300、 -1 の場合はシャットダウン無効
upsSignalLevel	15	UPS 論理	
debMasterEnableUpsShut	2	UPS シャットダウン有効化	1:有効 2:無効
debOIShutdownSignal	2,2,2	PC の ER 信号との連携の有効化	1:有効 2:無効
upsOutputSource	1	給電状態	0: 1: 未設定 3: 正常 5: バックアップ
upsBatteryStatus	1	バッテリー状態	0: 1: 未設定 2: 正常 3: 低電圧
upsInputLineBads	0	商用入力異常回数	
debWakeupPhysAddr		WOL 設定	"/" 区切りで 2 箇所以内
debWakeupMaxCount	2	マジックパケット送信回数	
debWakeupInterval	15	マジックパケット送信間隔(秒)	
debWakeupPhysAddrV		仮想アウトレット用の WOL 設定	"/" 区切りで 8 箇所以内
popPort	110	POP3 ポート	0~65535
smtpPort	25	SMTP ポート	0~65535
mailRetryCount	3	メールリトライ回数	1~99
mailRetryInterval	10	メールリトライ間隔(秒)	1~999
ipAdPopServer		POP3 サーバアドレス	
ipAdSmtpServer		SMTP サーバアドレス	
etherSpeed	2	接続速度	0: 接続していない 1: 10.0Mbps 2: 100.0Mbps
nttcpBufferMax	10000	バッファサイズの最大値	64~300000
nttcpOpt l	4096	バッファサイズ (-l) の省略値	64~300000
nttcpOpt n	2048	バッファ数 (-n) の省略値	1~999999999
nttcpOpt g	0	送信間隔 (-g) の省略値 (マイクロ秒)	0~9999999
nttcpOpt T	0	タイトル表示 (-T) の省略値	0: 無し、1: 有り
nttcpOpt f	*3 文字列	出力書式 (-f) の省略値	
nttcpSvIpAddr		サーバの IP アドレスの省略値	
nttcpSvPort	5037	サーバのポート番号 (-p) の省略値	0~65535
nttcpDataPort	5038	データのポート番号	0~65535
nttcpMcPhAddr	01:00:5E:11:32:25	マルチキャストの MAC アドレス	
nttcpMclpAddr	224.17.50.37	マルチキャストの IP アドレス (-m) の省略値	
nttcpMcPort	5047	マルチキャストのポート番号の省略値	0~65535
nttcpSumCheck	0	サムチェック制御	0: 無し 2: 有り 1: データ比較有りなら無し
nttcpTimeout	30	タイムアウト時間 (秒)	3~999
nttcpAutoStart	0	サーバモードでの自動立ち上げ指定	0: 無し、1: 有り
pingPktSize	16	PING パケットのデータ長	16~1472
resetCause	1	リセット原因表示	
popErrorCount	0	PING 監視 POP サーバへのアクセスエラー回数	0: 表示のみ
ledBlinkEnabled	1	LED の点滅の有効化	0: 無効 1: 有効
broadGroup	0	一斉電源制御の有効化	0: 無効 1~8: グループ
broadPhysAddr		一斉電源制御側 MAC アドレス	

*1 文字列 Meikyo Remote Power Controller, RPC-M4H Ver. 1.40A.110406

*2 文字列 Meikyo 100BASE-TX Driver

*3 文字列 %9b%8.2rt%8.2ct%12.4rbr%12.4cbr%8c%10.2rcr%10.1ccr

■ ログ一覧表

内 容	情 報	TELNET などのLOG
ログ開始		Log Start
PING 送信	outlet no. lpaddr no.	ping
PING 無応答	outlet no. lpaddr no.	No Echo
死活判定 (NoAction)	アウトレット no.	No Action
死活判定 (REBOOT)	アウトレット no.	Outlet Reboot
死活判定 (アウトレットON)	アウトレット no.	Outlet On
死活判定 (アウトレットOFF)	アウトレット no.	Outlet Off
正常/回復中	アウトレット no.	Outlet Recovered
スケジュール (REBOOT)	アウトレット no.	Outlet Reboot by Schedule
スケジュール (アウトレットON)	アウトレット no.	Outlet On by Schedule
スケジュール (アウトレットOFF)	アウトレット no.	Outlet Off by Schedule
温度監視 (REBOOT)	アウトレット no.	Outlet Reboot by Temperature
温度監視 (アウトレットON)	アウトレット no.	Outlet On by Temperature
温度監視 (アウトレットOFF)	アウトレット no.	Outlet Off by Temperature
全アウトレットON	アウトレット ALL ID (IDは接続者)	MPON
全アウトレットOFF	アウトレット ALL ID (IDは接続者)	MPOF
全アウトレットREBOOT	アウトレット ALL ID (IDは接続者)	MPOR
アウトレットON	アウトレット no.ID (IDは接続者)	PON
アウトレットOFF	アウトレット no.ID (IDは接続者)	POF
アウトレットREBOOT	アウトレット no.ID (IDは接続者)	POR
UTY 接続	IPAddr	->Uty
UTY ログインせず切断	IPAddr	<-Uty
UTY ログイン	lpaddr ID (IDは接続者)	=>Uty
UTY ログアウト	lpaddr ID (IDは接続者)	<=>Uty
メールログイン要求	lpaddr no. (no.は設定番号)	->Mail
メールログイン	lpaddr no. (no.は設定番号)	=>Mail
メールログアウト	lpaddr no. (no.は設定番号)	<=>Mail
TELNET 接続	IPAddr	->Telnet
TELNET ログインせず切断	IPAddr	<-Telnet
TELNET 多重超接続	IPAddr	>>XTelnet
TELNET ログイン	IPAddr	=>Telnet
TELNET ログアウト	IPAddr	<=>Telnet
Web 接続		->Web
Web ログイン		=>Web
Web ログアウト		<=>Web
モデム接続		->Modem
モデムログインせず切断		<-Modem
モデムログイン		=>Modem
モデムログアウト		<=>Modem
PPPoE 接続した	IPAddr	PPPoE Connect
PPPoE 切断した		PPPoE Disconnect
PPPoE 切断された		PPPoE Disconnected
PPPoE ノットレディになった		PPPoE Modem Down
PPPoE レディになった		PPPoE Modem Up

PPPoE 接続状態に戻った		PPPoE Continue
PPPoE IP リンクが解放された		PPPoE IP Link Release
設定変更	[変数名] ID (ID は接続者)	variable set (xxxx)
設定書込(WRITE)	ID (ID は接続者)	write to FROM
温度状態変化	正常、℃	Temperature Normal
温度状態変化	上限注意、℃	Temperature High Warning
温度状態変化	上限警報、℃	Temperature High Alarm
温度状態変化	下限注意、℃	Temperature Low Warning
温度状態変化	下限警報、℃	Temperature Low Alarm
NTP サーバ接続	hour minute second	NTP -- hh:mm:ss
NTP サーバ接続エラー		NTP Server Access Error
メールエラー		Mail Error
電源障害発生時		Power Trouble
電源障害回復時		Power Trouble Recover
容量低下発生時		Battery Low
容量低下回復時		Battery Low Recover

■ 制御コマンド一覧表

制御コマンド	内 容
MPON	全アウトレットの電源出力開始
MPOF	全アウトレットの電源出力停止
MPOR	全アウトレットのリポート（電源リポート）
PONn	指定されたアウトレットの電源出力開始 n=1~4
POFn	指定されたアウトレットの電源出力停止 n=1~4
PORn	指定されたアウトレットのリポート（電源リポート） n=1~4
PSRn	指定されたアウトレットの電源状態反転 n=1~4
MPONV	全仮想アウトレットにマジックパケットを送信する。
PONVx	(xは1~8) debWakeUpInterval 後にマジックパケットを送信する。
OLSn	<p>死活監視状態の表示 n=1~4 nを省略すると全てのアウトレットを表示します。 コンマ区切りで表示。</p> <p>Outlet No. アウトレット番号[1~4] Power 電源状態[0:Off 1:On] Judge 判定[1:正常 2:異常 3:回復中] Action Count Action 実行回数 Last Ping1 アドレス1の最後の応答[1:正常 2:異常] NoEchoCount1 アドレス1の未応答回数 NoEchoTime1 アドレス1の応答時間 (ms) [0:未設定 1:応答時間 9999:未応答] Last Ping2 アドレス2の最後の応答[1:正常 2:異常] NoEchoCount2 アドレス2の未応答回数 NoEchoTime2 アドレス2の応答時間 (ms) [0:未設定 1:応答時間 9999:未応答] Last Ping3 アドレス3の最後の応答[1:正常 2:異常] NoEchoCount3 アドレス3の未応答回数 NoEchoTime3 アドレス3の応答時間 (ms) [0:未設定 1:応答時間 9999:未応答] Last Ping4 アドレス4の最後の応答[1:正常 2:異常] NoEchoCount4 アドレス4の未応答回数 NoEchoTime4 アドレス4の応答時間 (ms) [0:未設定 1:応答時間 9999:未応答]</p>
VER	バージョンの表示
POS	<p>全アウトレットの電源状態取得 応答: mmmm 左側からアウトレット1~4 m=0:OFF 1:ON</p>
XPOS	<p>全アウトレットの電源状態詳細の取得 応答: ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX, 左側からアウトレット1~4 A=0:OFF 1:ON B=0:OFF 遅延中 1:ON 遅延中 XXXX=Bのタイマ残り時間</p>

PASS	パスワードの変更 新しいパスワードを2回入力します。 ※入力を失敗すると変更されません。
TELNET	変数「ipAdTelnetT」のアドレス、変数「remoteTelnetPortT」のポートに TELNET クライアントとして接続します。 DiscChar に設定した文字を入力すると切断終了する。 一度に受信するデータは、概ね40Kバイト以下でご利用ください。
DATE	年月日設定 例) DATE yy/mm/dd yy:年 mm:月 dd:日
TIME	現在時刻設定 (秒は省略可) 例) TIME hh:mm:ss hh:時 mm:分 ss:秒
PING	I CMPを4回送信します。 例) PING [IPアドレス]
IPCONFIG	LANの通信設定を表示します。(例) IpAddress 192.168.10.1 SubnetMask 255.255.255.0 DefaultGateway 192.168.10.254 EthernetSpeed 100.0Mbps
CPURESET	CPUをリセットします。 コマンドを実行しても電源状態は変化しません。
PROMPT= <i>n</i>	0 (プロンプト表示無し) 1 (「>」のプロンプト表示) 2 (「 機器名 >」のプロンプト表示) *変数「promptMode」により接続直後のモードが決まります。
EXIT	回線切断 最初の文字がE, e, Q, qの場合はEXITと認識します。

※「XPOS」「VER」「PASS」などいくつかのコマンドはログイン時のみ有効です。

■ 仕様一覧表

通信仕様	LAN 通信仕様	ARP、TCP/IP、UDP/IP、ICMP、POP3、BOOTP、DHCP、TELNET、SMTP、APOP、NTP、HTTP、SNMP、PPPoE、NTT CP	
	LAN 制御方法	SNMP マネージャー、TELNET	
		TCP/IP ユーティリティ、Web E-mail	
機能	電源制御/管理	電源 ON	
		電源 OFF	
		リポート	
		電源状態取得	
		グループ制御	
	スケジュール機能	週間スケジュール機能(20 個)	
		NTP による時刻同期機能	
		スケジュール ON/OFF 機能	
	遅延時間設定	電源 ON 遅延時間	
		電源 OFF 遅延時間(シャットダウン時間)	
		リポート時間	
UPS 連携	停電時連動機能		
シャットダウン機能	電源障害信号出力、 スクリプト通信(TELNET)		
状態監視	ICMP 送信		
	通報機能: SNMP トラップ、UDP パケット		
	温度監視		
WOL 対応機能	あり: MAGIC PACKET 送信		
ハード仕様	インターフェース	10Base-T/100Base-TX x1 (RJ45) (IEEE802.3 に準拠)	
		RS-232C x 1 (Dsub9 ピンオス)	
		RJ11 x 4 (シャットダウンインターフェース)	
		RJ11 (温度センサー)	
	定格	最大制御出力	100V AC 15A (1500W)
		消費電力	最大 約 5.8W
		入力電源電圧	AC100V ±10% (50/60Hz)
	使用環境	温度	5~40℃
		湿度	20~85% (ただし結露なきこと)
	外形寸法	220(W) x 45(H) x 170(D)mm	
重量	1.6kg		
環境保証	RoHS 指令対応品		

■ タイムチャート

接点式 UPS 利用時

- ・UPS 自動停止無効
- ・DIP スイッチ.1 のみ ON
- ・PowerON=0(s)

T1 : UPS モニタ時間間隔

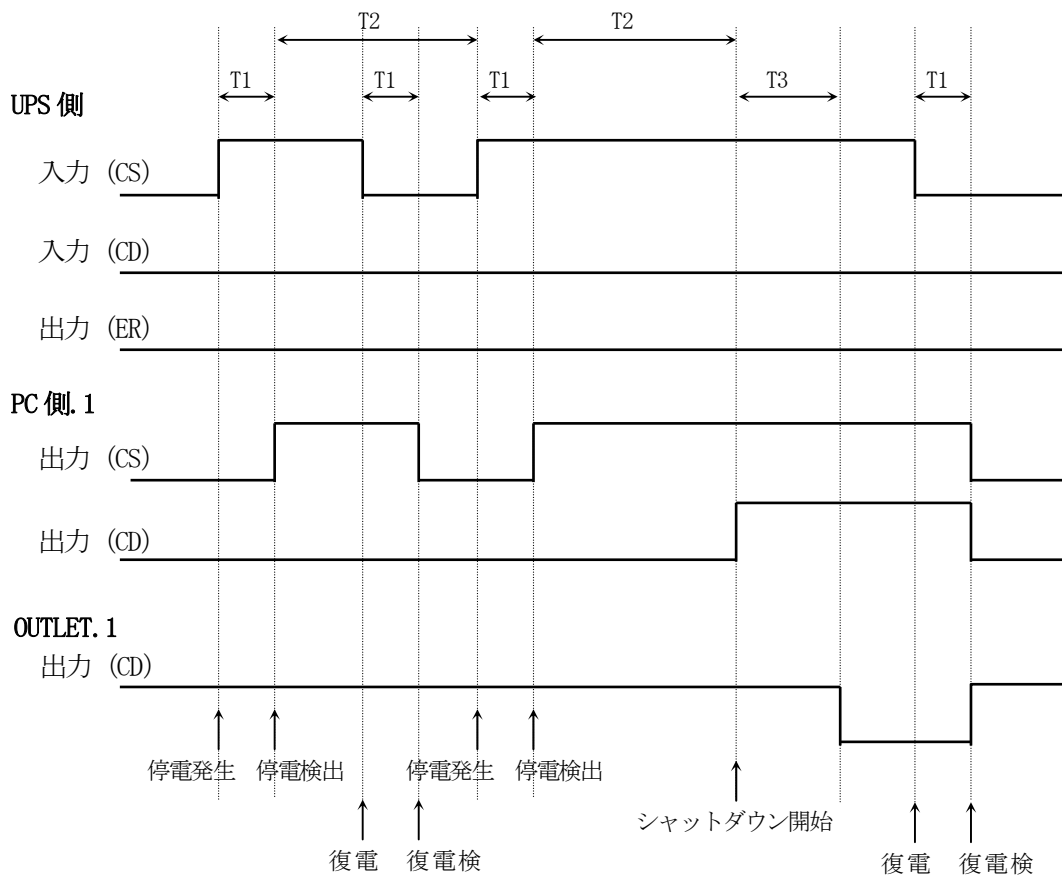
デフォルト: 10 秒 設定可能値: 0、10~60

T2 : シャットダウン開始待機時間(停電確認時間)

デフォルト: 120 秒 設定可能値: -1~300

T3 : Shut down(シャットダウン遅延時間)

デフォルト: 30 秒 設定可能値: 0~3600



CS : 電源障害信号

CD : 容量低下信号

問い合わせ先

明京電機株式会社

〒114-0012 東京都北区田端新町 1-1-14

東京フェライトビル 4F

TEL 03-3810-5580 FAX 03-3810-5546

ホームページアドレス

<http://www.meikyoelectric.co.jp/>

ご注意

- (1) 本書および製品の内容の一部または全部を無断で複写複製することは禁じます。
- (2) 本書および製品の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書および製品の内容については、万全を期して作成いたしました。が、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
- (4) 本製品を運用した結果の影響については、(3) 項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- (5) 本製品がお客様により不当に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、または弊社および弊社指定のもの以外の第三者により修理・変更されたこと等に起因して生じた障害などに つきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (6) 弊社指定以外のオプションを装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。

WATCH BOOT mini RPC-M4H

取扱説明書 2015年 9月 第2.2d版